山梨県韮崎市

宮ノ前第5遺跡

韮崎市立北東児童センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

韮崎市教育委員会

山梨県韮崎市

宮ノ前第5遺跡

韮崎市立北東児童センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

韮崎市教育委員会

宮ノ前第５遺跡上空より北東小学校（宮ノ前遺跡）を望む

序　　文

韮崎市の藤井平では、これまでに県営圃場整備事業により多くの遺跡が発掘調査されました。最近では市立北東小学校建設に伴う宮ノ前遺跡の調査をはじめ、市単独の公共事業に係り多くの遺跡が発掘調査され、貴重な文化財が発見されております。この度発刊された本報告書は、遺跡の宝庫である藤井平のいっかくにあり、韮崎市立北東児童センター建設事業に先立って平成８年度に発掘調査された、宮ノ前第５遺跡の報告であります。

宮ノ前第５遺跡は平成元年～２年に調査された宮ノ前遺跡の北東側に位置し、12軒の竪穴住居址や掘立柱建物址などの遺構や溝が発見されました。これらは、藤井平の集落や開発の歴史を知る上で貴重なものと言えます。出土した遺物は平安時代の土師器・須恵器といった生活用具が主体となっており、当時の人々の生活を知ることのできるものです。また、今回の調査では県内で宮ノ前第３遺跡についで２例目となる漆紙が発見されました。遺構や遺物の詳細は報告文に譲りますが、本遺跡から発見されたものは当時の社会や文化を知る上で貴重です。これらの資料を文化財として永く後世に伝えて行きたいと思います。本報告書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

最後に、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成９年３月31日

韮崎市教育委員会

教育長　口野道男

例　　言

1　本書は、山梨県韮崎市藤井町駒井字宮ノ前2248－1番地に所在した宮ノ前第5遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、韮崎市立北東児童センター建設工事に係り行われた。

3　遺跡の名称は、平成元年～2年に実施された宮ノ前遺跡発掘調査から数えて、字宮ノ前地域における5回目の調査であることから「宮ノ前第5」を遺跡名とした。

4　発掘調査は、韮崎市教育委員会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。

5　整理作業及び報告書作成にかかわる業務は、山下孝司が担当した。整理者は功刀まゆみ・石原ひろみ・小野初美・清水由美子・深沢真知子・三井福江・佐野靖子・岩崎満佐子・林紀子・保坂真澄・雨宮寛美・藤井多恵子である。なお、石器に関しては佐野隆氏の実測指導を受けた。また、櫛原功一・森原智恵子の両氏には遺物整理・実測等でお世話になった。

6　本書の編集並びに執筆は山下が行った。

7　漆紙については、国立歴史民俗博物館の平川南先生と永嶋正春先生に見ていただき、その時の所見をもとに山下が「Ⅵ　宮ノ前第5遺跡出土の漆紙」としてまとめた。「Ⅶ　宮ノ前第5遺跡の須恵器大甕」に関しては、平川先生をはじめ諫山えりか（新潟市教育委員会）・渡辺ますみ（黒埼町教育委員会）・閏間俊明の各氏からご助言・ご指導・文献提供などの便宜をいただいた。

8　凡　　例

①　遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。②　縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土をあらわす。③　遺構断面図の水糸標高（m）は数字で示した。④　挿図断面図の　は石をあらわす。⑤　歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。⑥　写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。

9　発掘調査及び報告書作成に当たっては、多くの方々から御指導・御協力・御鞭撻をいただいた。厚く御礼を申し上げる次第である。

10　発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　　韮崎市教育委員会

2　調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調 査 員　　伊藤正彦（韮崎市遺跡調査会）

4　調査参加者

秋山東・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・功刀まゆみ・三井福江・清水由美子・上野理江・阿部由美子・新藤澄江・坂本恒子

5　事 務 局（韮崎市教育委員会社会教育課）

教育長　口野道男、課長　深谷　卓、課長補佐　深沢義文、係長　内藤晴人、野口文香

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿図目次
写真図版目次

Ⅰ　発掘調査の経過と概要 …… 1
　1　発掘調査にいたる経緯
　2　発掘調査の概要

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1
　1　遺跡の立地
　2　周辺の遺跡

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 4

Ⅳ　遺　　構 …… 5

Ⅴ　遺　　物 …… 14

Ⅵ　宮ノ前第5遺跡出土の漆紙 …… 41

Ⅶ　宮ノ前第5遺跡の須恵器大甕 …… 43

Ⅷ　ま と め …… 48

写真図版

挿　図　目　次

第1図　宮ノ前第5遺跡①と周辺の遺跡 …… 2
第2図　宮ノ前第5遺跡位置図 …… 2
第3図　宮ノ前第5遺跡全体図 …… 3
第4図　1号住居址、2号住居址平・断面図 …… 5
第5図　3号住居址、6号住居址平・断面図 …… 7
第6図　4号住居址平・断面図 …… 8
第7図　5号住居址平・断面図 …… 8
第8図　7号住居址、8号住居址平・断面図 …… 9
第9図　9号住居址、10号住居址平・断面図 …… 10
第10図　11号住居址平・断面図 …… 11
第11図　12号住居址平・断面図 …… 11
第12図　1号掘立柱建物址平・断面図 …… 12
第13図　1号溝状凹地、1号溝平・断面図 …… 13
第14図　1号凹地平・断面図 …… 13
第15図　1号住居址出土遺物 …… 15
第16図　2号住居址出土遺物 …… 16
第17図　3号住居址出土遺物・石器 …… 16
第18図　4号住居址出土遺物 …… 18
第19図　5号住居址出土遺物 …… 19
第20図　6号住居址出土遺物 …… 22
第21図　6号住居址出土遺物 …… 23
第22図　6号住居址出土遺物 …… 24
第23図　7号住居址出土遺物 …… 25
第24図　9号住居址出土遺物 …… 28
第25図　10号住居址出土遺物・石器 …… 29
第26図　11号住居址出土遺物・石器 …… 34
第27図　12号住居址出土遺物 …… 35
第28図　12号住居址出土遺物 …… 36
第29図　1号掘立柱建物址出土遺物 …… 36
第30図　1号溝出土遺物 …… 36
第31図　1号溝出土遺物 …… 37
第32図　1号溝状凹地出土遺物・石器 …… 38
第33図　遺構外出土遺物 …… 38
第34図　遺構外出土遺物 …… 39
第35図　遺構外出土遺物・石器 …… 40
第36図　1号住居址出土漆紙と土師器坏 …… 42
第37図　宮ノ前第5遺跡出土須恵器大甕 …… 43
第38図　宮ノ前第5遺跡出土須恵器大甕 …… 44
第39図　宮ノ前第5遺跡出土須恵器大甕 …… 45

写 真 図 版 目 次

図版1　1号住居址、2号住居址、3号住居址、4号住居址、5号住居址、6号住居址遺物出土状態、6号住居址、7号住居址・8号住居址

図版2　9号住居址、10号住居址、11号住居址、12号住居址、1号掘立柱建物址、1号溝、1号溝状凹地、1号凹地、発掘風景

図版3　1号住居址出土遺物、3号住居址出土遺物、4号住居址出土遺物、5号住居址出土遺物、6号住居址出土遺物

図版4　7号住居址出土遺物、9号住居址出土遺物、11号住居址出土遺物、12号住居址出土遺物、1号溝出土遺物、1号溝状凹地出土遺物、遺構外出土遺物

図版5　遺構外出土遺物、須恵器大甕

図版6　須恵器大甕

Ⅰ　発掘調査の経緯と概要

1　発掘調査にいたる経緯

平成８年３月に韮崎市福祉事務所から、児童センター建設にかかる韮崎市藤井町駒井字宮ノ前2248－１番地の開発に関して埋蔵文化財取り扱いの事前協議が韮崎市教育委員会にあった。当該地域は宮ノ前遺跡の周辺でもあり現地を踏査したところ遺跡の存在が予想されたため、本市教育委員会では直ちに遺跡有無確認の試掘調査を行った。結果、土師器破片が出土し、遺跡の存在を確認した。その結果、本市教育委員会と福祉事務所側で協議を行い、遺跡名を宮ノ前第５遺跡、調査主体を韮崎市教育委員会として、建設工事に先立って面積約400㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

2　発掘調査の概要

発掘調査期間　　平成８年４月23日～７月24日

調査は重機により遺物出土面乃至遺構確認面まで排土作業を行い、地形等を考慮し測量の基準として、任意に５ｍ間隔の方眼を設定し、鋤簾等を用い精査を行い、遺構確認後掘り下げを行った。また、随時補助的試掘溝を設定し、遺構の確認等を図った。

調査区域内の土層堆積状況は、10号住居址北側で観察するとⅠ水田耕作土・Ⅱその床土（旧耕作土）・Ⅲ鉄分沈着暗赤褐色土（古い床土）・Ⅳ暗黄褐色砂質土となっており、遺構は基本的に４層の暗黄褐色砂質土層中に掘り込まれていた。

調査区域は東西方向が長いほぼ長方形の範囲で、西側には溝が南北方向にはしり、住居址は東側に発見され、北西側には斜めに凹地が横切っていた。発見された遺構は、竪穴住居址12軒、掘立柱建物址１棟、溝１条、溝状凹地１基、凹地１基である。

平成８年４月23日～７月24日の調査についで遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成９年３月であった。

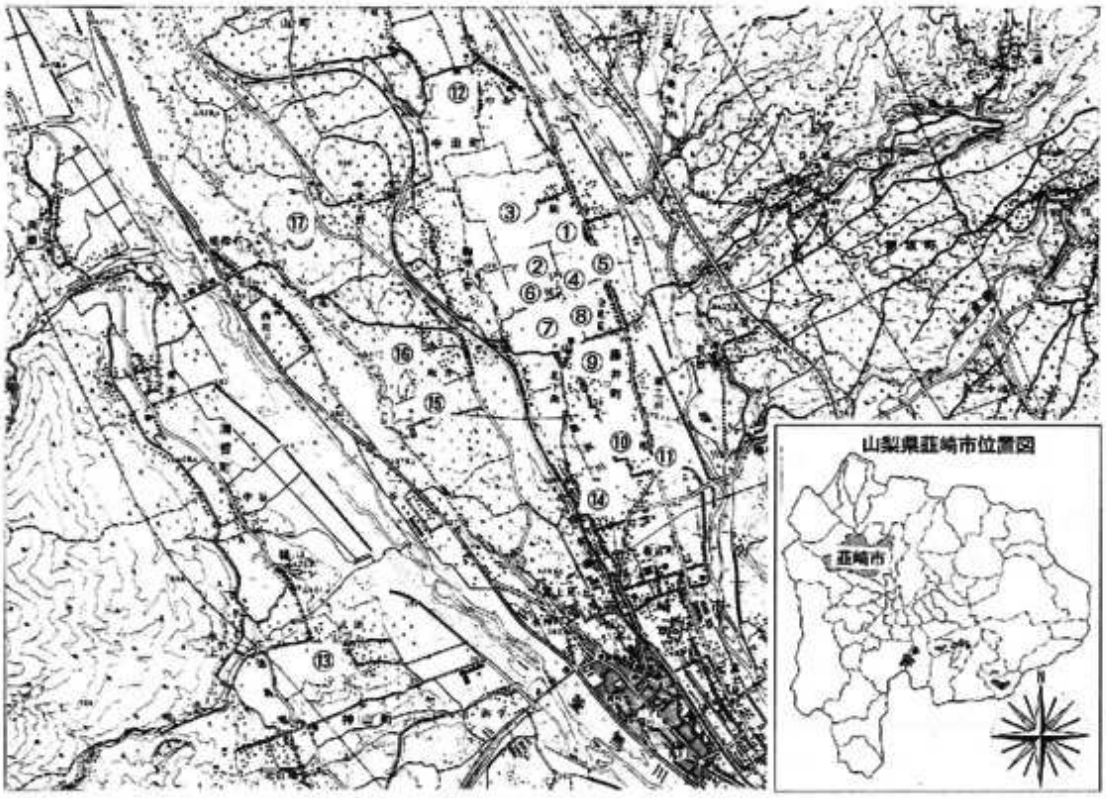
Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地

宮ノ前第５遺跡は、山梨県韮崎市藤井町駒井字宮ノ前地内に所在した。

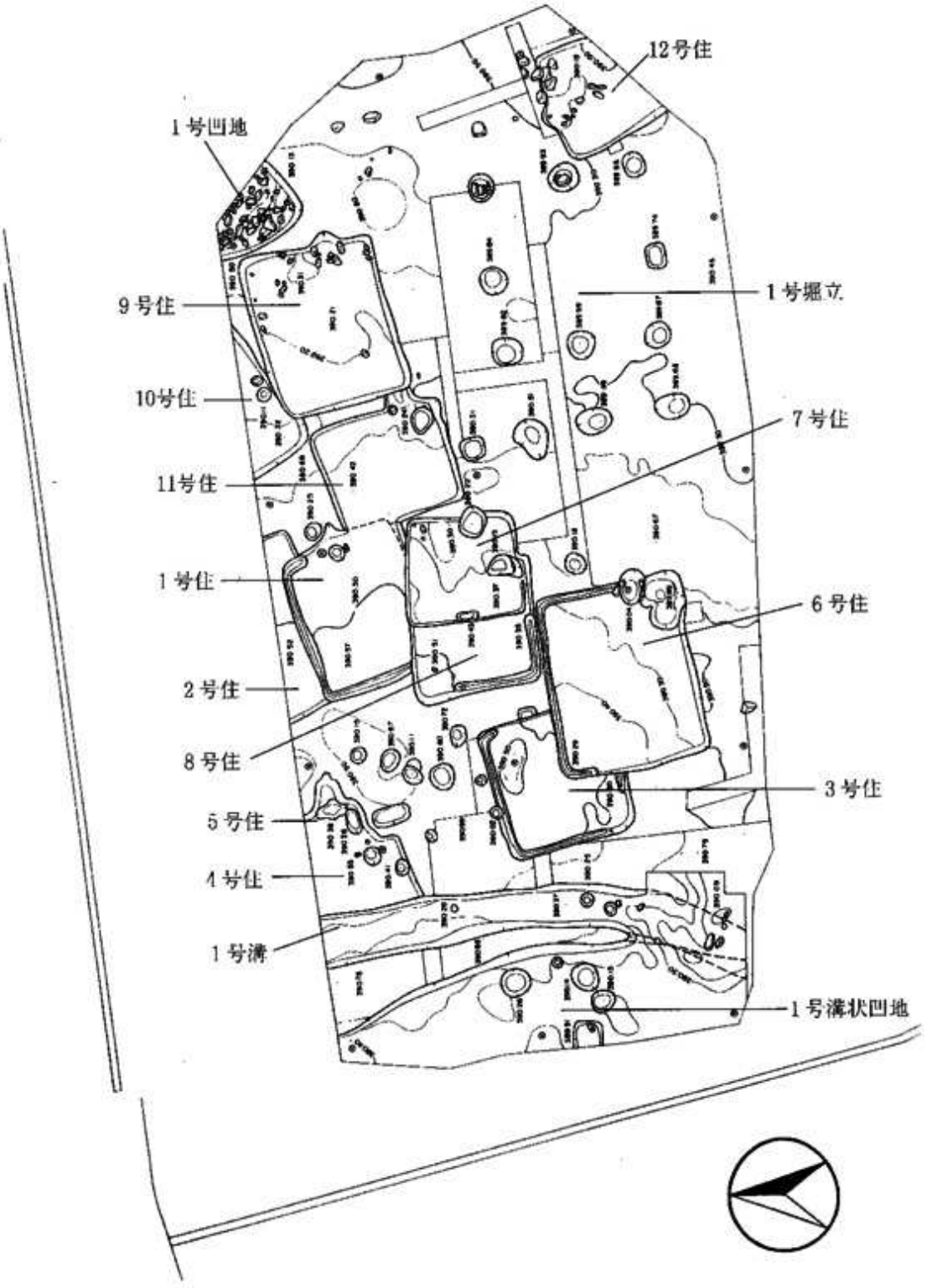
韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

宮ノ前第５遺跡の所在した塩川右岸の氾濫原は、塩川の浸食によって造られた茅ヶ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっ



第1図　宮ノ前第5遺跡①と周辺の遺跡　（1：50,000）

第2図　宮ノ前第5遺跡位置図　（1：10,000）



第3図　宮ノ前第5遺跡全体図　(1／200)

ている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ単人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高地上に遺跡が点在しており、宮ノ前第５遺跡は標高約391ｍの水田下に発見された。

2　周辺の遺跡

番号	遺跡名	時代区分	備考
①	宮ノ前第５	奈良・平安	
②	宮ノ前	縄文・弥生・奈良・平安	平成元年～２年　韮崎市遺跡調査会調査
③	宮ノ前第２	奈良・平安・中世	平成２年度　韮崎市教育委員会調査
④	宮ノ前第３	奈良・平安	平成４年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑤	宮ノ前第４	奈良・平安	平成６年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑥	北後田	縄文・奈良・平安	平成元年度　韮崎市教育委員会調査
⑦	後田	縄文・古墳・奈良・平安	昭和63年度　韮崎市教育委員会調査
⑧	堂の前	弥生・平安	昭和61年度　韮崎市教育委員会調査
⑨	後田第２	縄文・弥生・古墳・平安	平成７年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑩	下横屋	弥生・奈良・平安	平成元年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑪	枇杷塚	古墳	平成７年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑫	中田小学校	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度　韮崎市教育委員会調査
⑬	新田	縄文・弥生・平安	平成６年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑭	山影	縄文	平成５年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑮	坂井南	縄文・古墳・平安・中世	昭和57・58・60年、平成６年度　韮崎市教育委員会調査 平成４・５・７年度　韮崎市遺跡調査会調査
⑯	坂井	縄文	志村滝蔵『坂井』　地方書院　昭和40年
⑰	新府城	中世	国指定史跡

Ⅲ　遺跡の地相概観

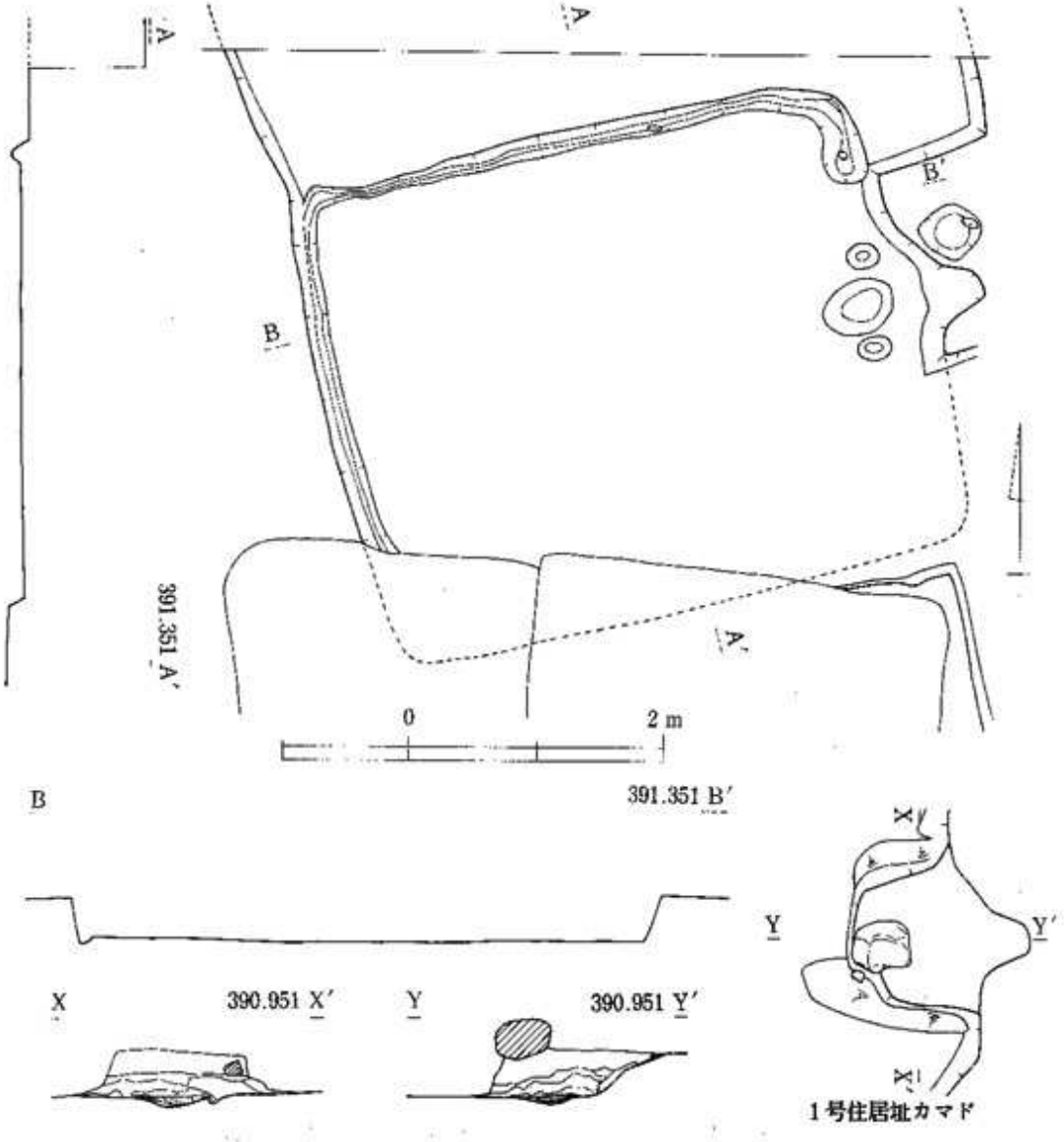
宮ノ前第５遺跡は、塩川右岸氾濫原の微高地上に立地する。位置的には鳥居集落から北西の方向にあたり、宮ノ前遺跡（現市立北東小学校）から北東へ200ｍ程離れている。遺跡の周囲は北から西側にかけて水田が広がり、南から東側は畑で、東側には住宅が３軒ほどある。

Ⅳ 遺　　構

調査の結果発見された遺構は、竪穴住居址12軒、掘立柱建物址１棟、溝１条、溝状凹地１基、凹地１基である。

＜１号住居址＞　（第４図）

１号住居址は調査区域中央北側に位置する。南半分は７号・８号・11号住居址に切られ遺存していない。北側では２号住居址を切っている。東西方向は４ｍ70cm程の規模があり、南北方向は推定で３ｍ90cm程と思われる。平面形態は隅円長方形であろう。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは35cm前後の竪穴となっている。周溝は北側から西側にかけて確認された。カ



第４図　１号住居址、２号住居址平・断面図　（1／60）

マドは東壁に作られる。柱穴は無い。

＜2号住居址＞　（第4図）

2号住居址は1号住居址北側にあり、南側の一部分を発掘したのみで大部分は調査区域外となっている。南壁は1号住居址に切られ遺存していない。調査区域北半分中央に位置する。東西5m50cm程の規模があり、比較的大型の竪穴と推察される。確認面からの深さは30cm前後。発掘部分には周溝や柱穴は確認されなかった。住居址の形態を窺い知るには非常に情報が少ない。

＜3号住居址＞　（第5図）

調査区域西半分の中央に位置する。南東側は6号住居址に切られて遺存していない。東西方向は約4m20cm、南北方向は約4mの規模がある。平面形は方形を呈していたと思われる。確認面からの深さは45cm前後。床面はほぼ平坦であるが、南端は一段さがっていた。周溝は北側から西側にかけてと南側にある。柱穴は無い。カマドは遺存していなかったが、東側遺存部分はカマド跡の部分と思われる落ち込みがあった。

＜4号住居址＞　（第6図）

調査区域北西側に位置する。東壁は5号住居址を切っており、西側は1号溝に切られ、北辺は調査区域外となっている。壁のわかる調査部分の南北で約3mの幅をもつ。方形の平面形と推定されよう。確認面からの深さは25～30cm程である。床面はほぼ平坦、南側に周溝が一部発見された。柱穴は無いが、南壁際に穴が検出された。ほかに凹みが3カ所ある。カマドは東壁に作られ、石で構築されたしっかりしたつくりとなっている。

＜5号住居址＞　（第7図）

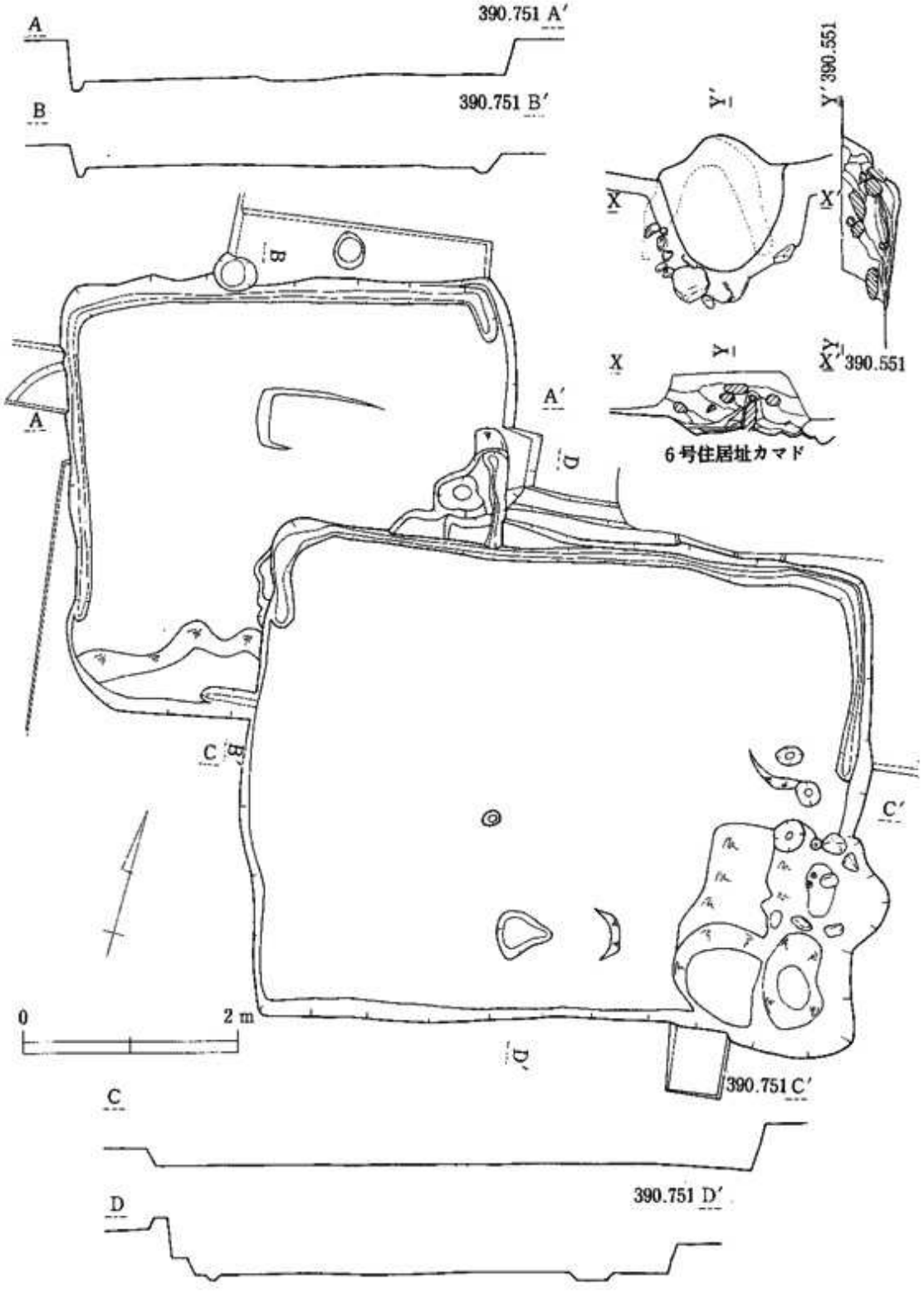
調査区域北西側4号住居址の東側に位置する。西側は4号住居址に切られている。北側は調査区域外で未調査である。発掘はカマドとその周辺という狭い範囲であり、規模や平面形態は不明である。カマドの大きさは1m×1m70cm程で、壁から煙道がわりと突出した形態となっている。床面はほぼ平坦。南東隅に穴がある。

＜6号住居址＞　（第5図）

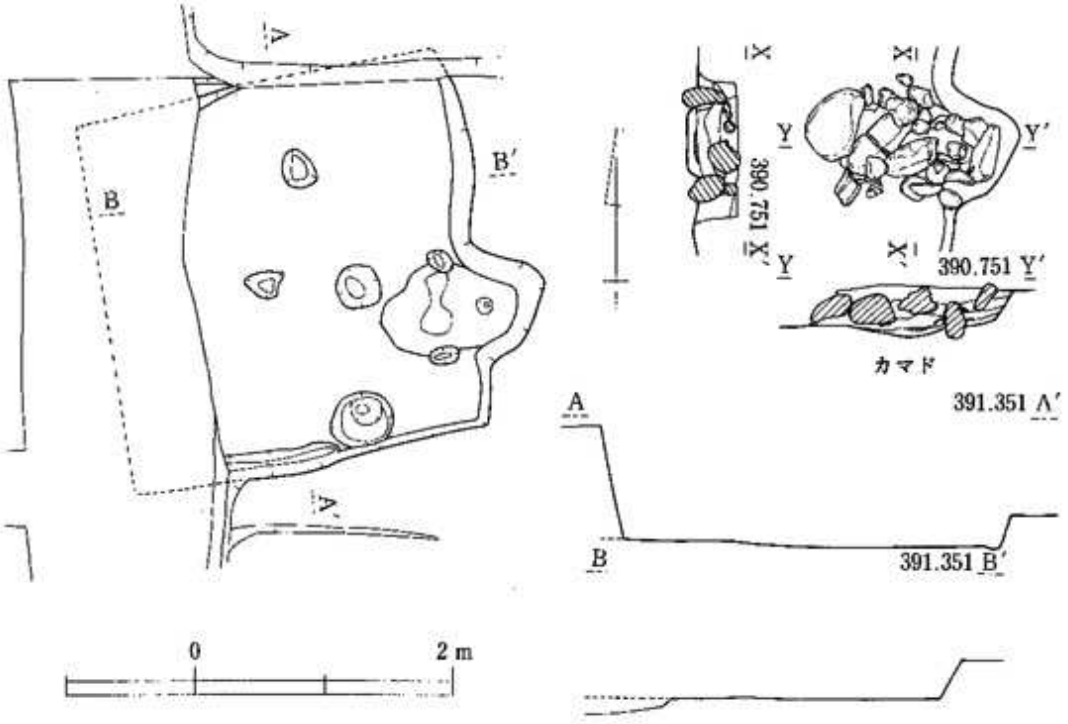
調査区域中央南西に位置する。北西側で3号住居址を切っている。東西約5m80cm、南北約4m50cmの規模があり、遺跡内で最大の竪穴となっている。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは35cm程である。周溝は東側中央から北側をめぐっている。柱穴はない。カマドは東壁の南寄りにつくられ、1m20cm×1m20cm程の大きさで、石を芯に粘土（6号住居址カマド図の破線の範囲に粘土が確認された。）を用いて構築されたものである。

＜7号住居址＞　（第8図）

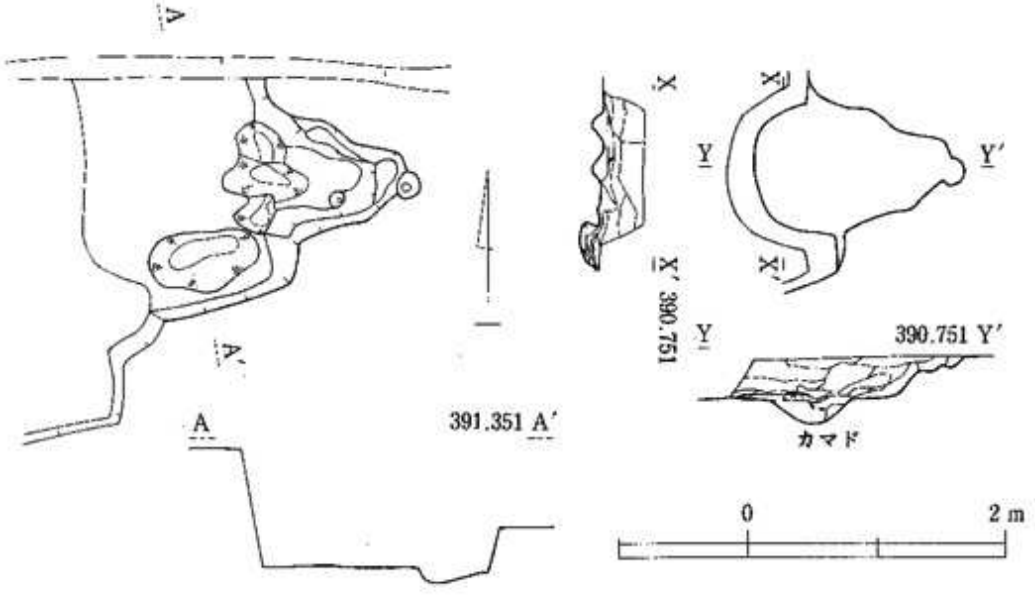
調査区域中央に位置する。北側で1号住居址、西側は8号住居址を切っている。東西約3m20cm、南北約3m40cmの規模があり、平面形は不整な方形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは40cm程である。床面はほぼ平坦。柱穴・周溝はない。西側壁中央に接して、幅20cm、長さ70cm、深さ10cmの穴が検出された。住居の出入口にかかわる施設の跡であろ



第5図　3号住居址、6号住居址平・断面図　(1／60)



第6図　4号住居址平・断面図　(1／60)

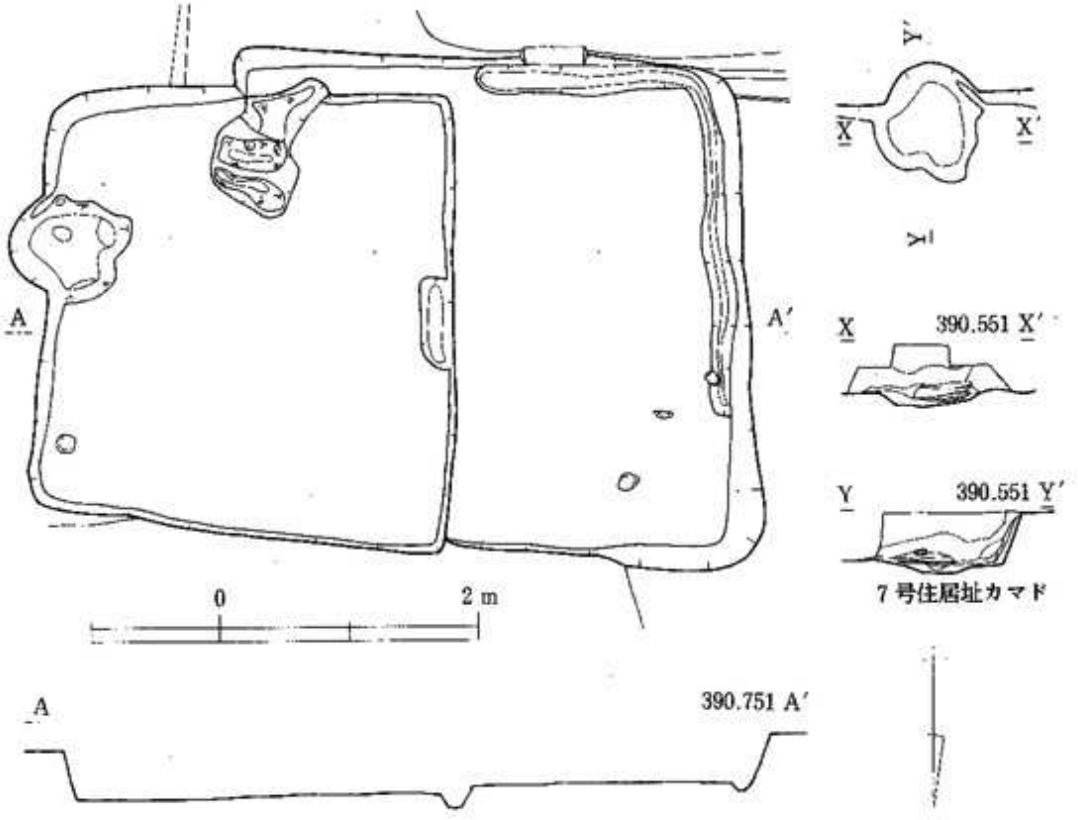


第7図　5号住居址平・断面図　(1／60)

うか。カマドは東壁の南寄りにつくられ、1m×1m程の大きさである。

＜8号住居址＞　(第8図)

調査区域中央に位置する。7号住居址の西側にあり、7号住居址に3分の1程切られている。



第8図　7号住居址、8号住居址平・断面図　(1／60)

一辺約3m80cmで、平面形は方形を呈していたと思われる。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは40cm程である。床面はほぼ平坦。柱穴はない。周溝は西壁際から南壁際にかけてある。カマドは遺存部分にないが、7号住居址床面下に焼土の混ざった土の入り込んだ凹みが発見されているので、それが本住居址のカマド跡と思われる。

＜9号住居址＞　(第9図)

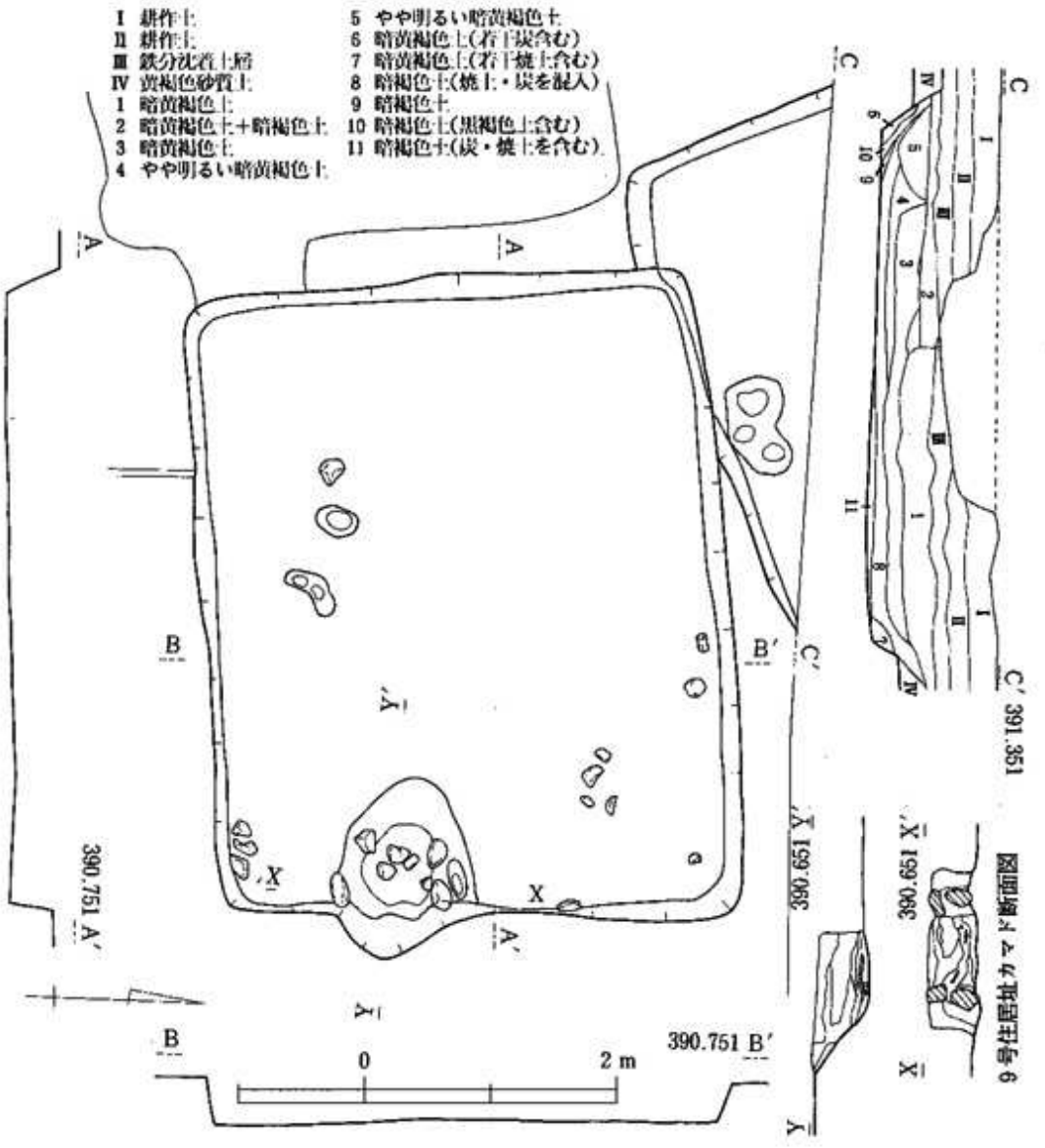
調査区域北東に位置する。北西側で10号住居址、西側で11号住居址を一部切っている。東西約5m、南北約4m20cmで、平面形は長方形を呈する。遺跡内では比較的大型の竪穴となっている。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは30〜40cm程である。床面はほぼ平坦。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南寄りに、1m30cm×1m程の大きさで、袖に石を用いて構築される。

＜10号住居址＞　(第9図)

調査区域北東端に位置する。南側の一部を9号住居址に切られている。北側は調査区域外で未調査であり、詳細は不明。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは25cm前後となっている。床面はほぼ平坦。南壁際に穴がある。

＜11号住居址＞　(第10図)

調査区域北側に位置する。北西側は1号住居址と重複しており壁が不鮮明、東側では9号住居

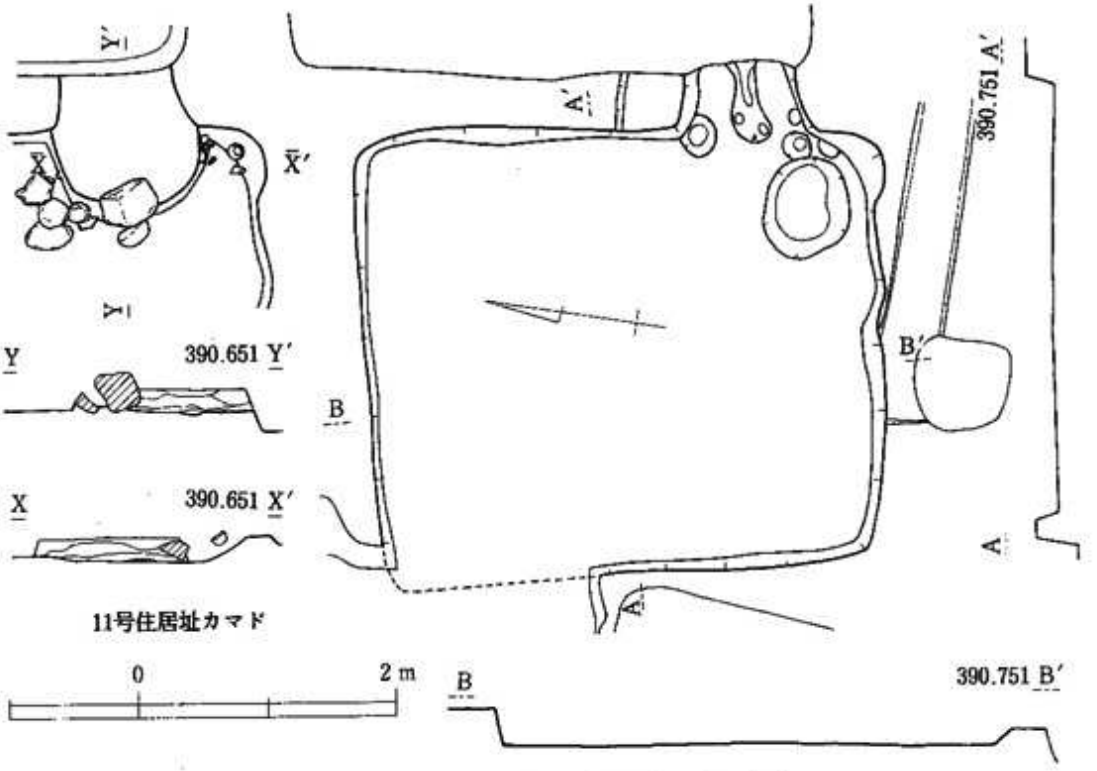


第9図　9号住居址、10号住居址平・断面図　(1／60)

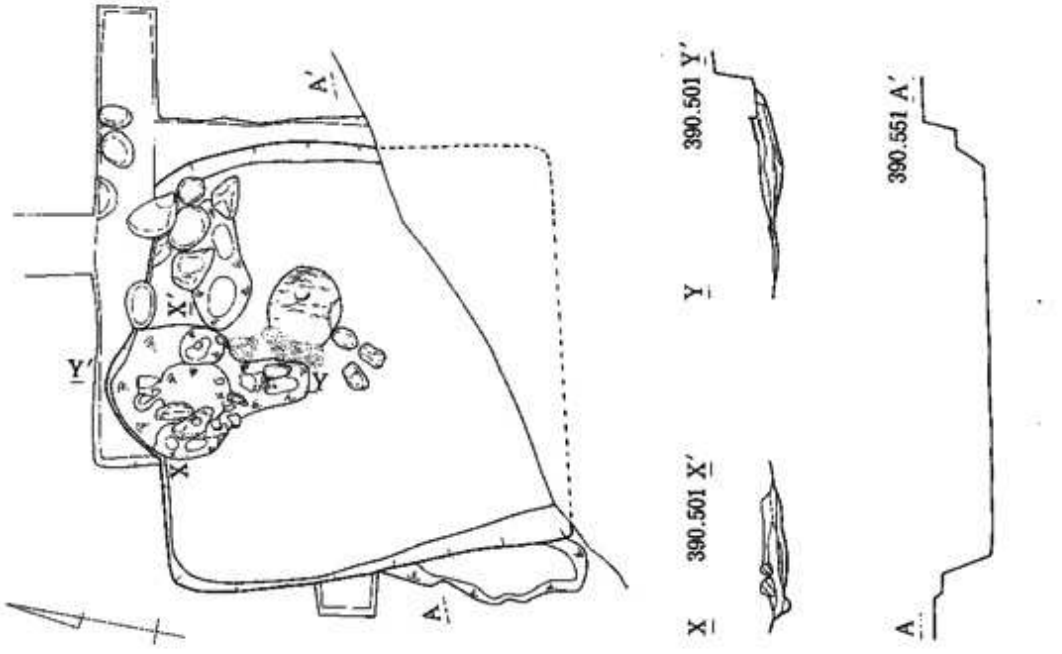
址にカマド煙道部分が切られている。東西約3ｍ40cm、南北約4ｍで、平面形は長方形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは18～30cm程である。床面は西から南にかけてやや低くなっている。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南寄りに、1ｍ30cm×1ｍ程の大きさで、袖に石を用いて構築される。

＜12号住居址＞　(第11図)

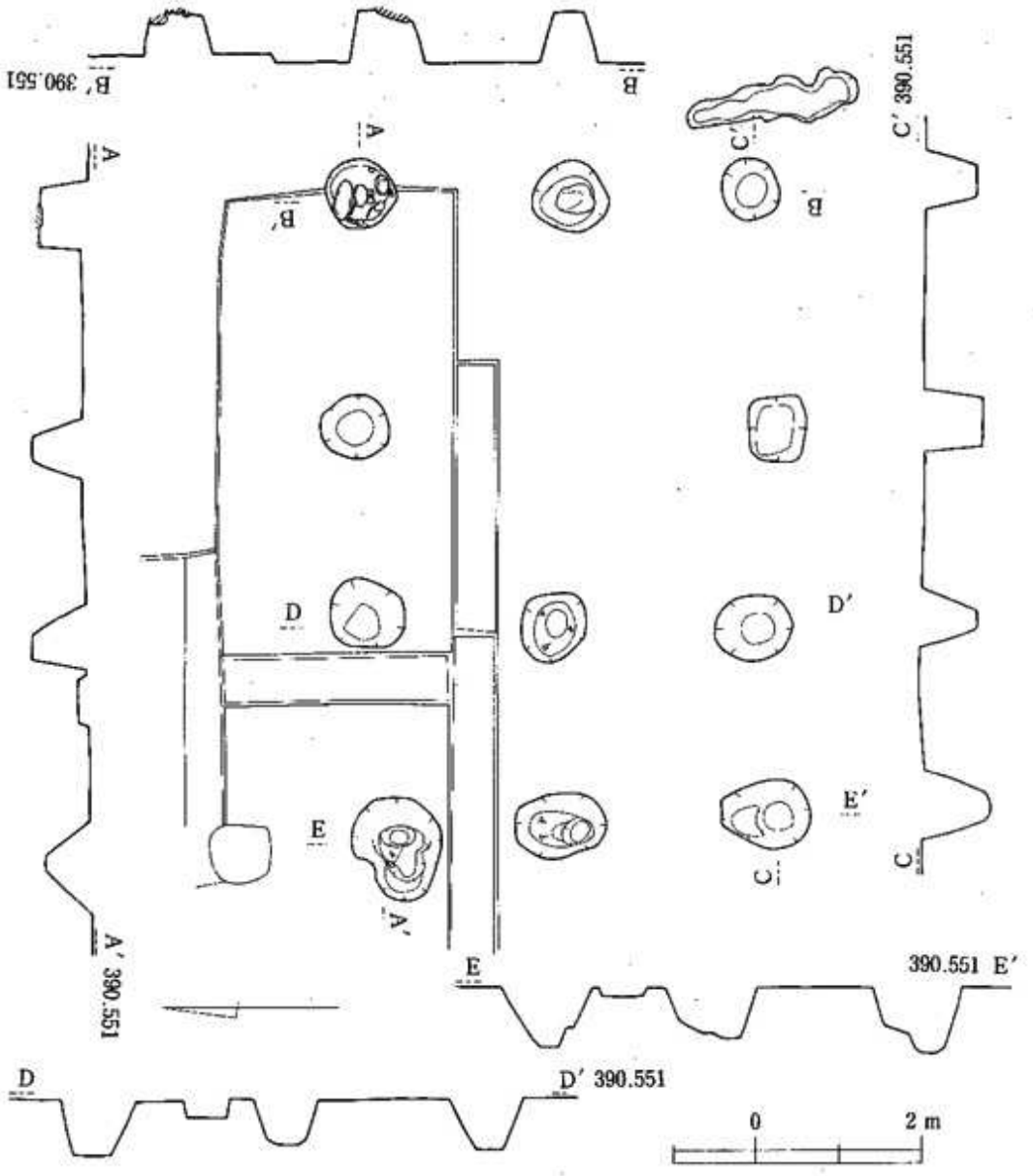
調査区域東端に位置する。南側は調査区域外で未調査。東西約3ｍ30cmの規模で、南北は僅かに南西隅が確認されたのみで約3ｍ10cmある。平面形はほぼ長方形を呈すると思われる。壁はやや外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは45cm程である。床面は平坦であるが、地山の石が露出している。柱穴・周溝はない。カマドは北壁中央に、1ｍ×1ｍ程の大きさで、基本的に



第10図　11号住居址平・断面図　(1／60)



第11図　12号住居址平・断面図　(1／60)



第12図　1号掘立柱建物址平・断面図　(1／90)

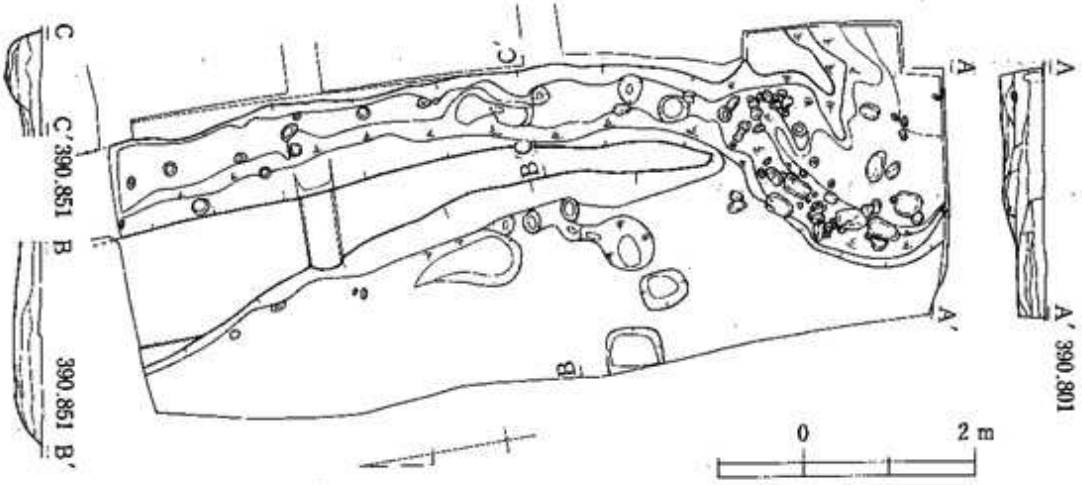
袖に石を用いて構築されたものであろう。

＜1号掘立柱建物址＞　(第12図)

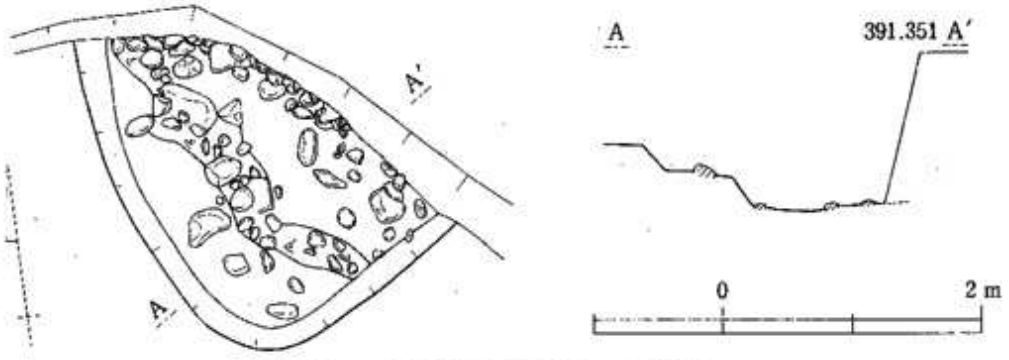
掘立柱建物址は1棟のみで、調査区域南東側に位置する。東西方向に長軸をもつ2間×3間の建物で、2間×2間の側柱建物の西側に庇が付いた形態であろうか。

＜1号溝＞　(第13図)

調査区域西側に位置する。幅90cm、深さ40cmで、やや湾曲しながら北から南にかけて流れをもつ。南側では1号溝状凹地と重複し境界が不鮮明であった。



第13図　1号溝状凹地、1号溝平・断面図　(1／90)



第14図　1号凹地平・断面図　(1／60)

＜1号溝状凹地＞　(第13図)

調査区域西端に位置する。深さ30cm程の落ち込みがあるが、遺構の性格は不明である。

＜1号凹地＞　(第14図)

調査区域北東端に位置する。当初暗褐色の落ち込みを検出し、住居址として掘り下げたが遺物の出土がなく、結果として単なる凹地とした。

V 遺　　物

調査の結果出土した遺物は、奈良・平安時代のものが主体となっている。遺構から出土した遺物を中心に紹介し、一覧表でみていこう。

＜1号住居址出土遺物＞　（第15図）

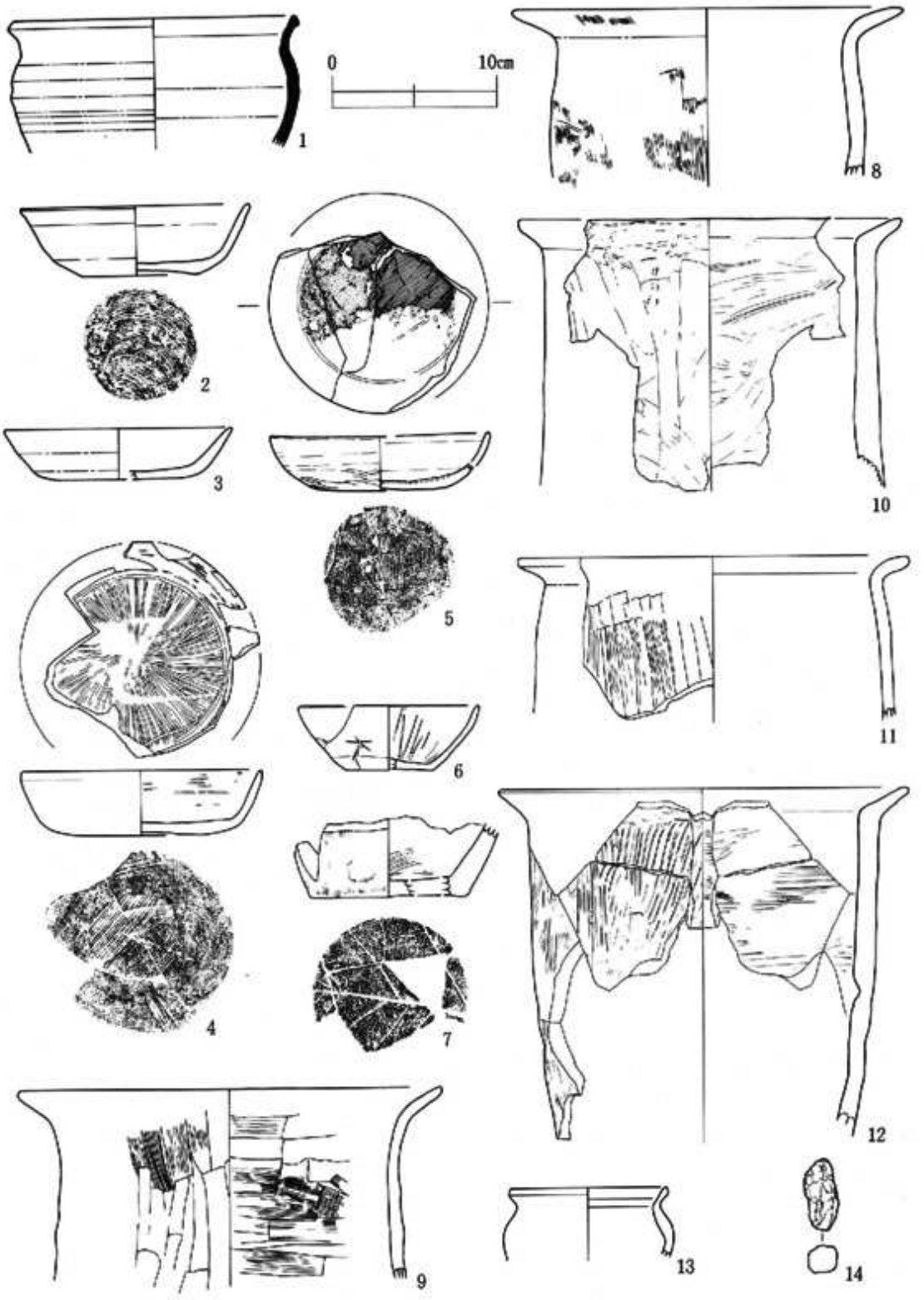
（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	甕	－，17.1，－	白・赤色粒子を含む	黄灰色一部褐灰色	ロクロ横走痕を留める 口縁部～胴部破片
2	土師器	坏	4.3，13.9，6.9	赤・白色粒子を含む	橙色 にぶい黄橙色	内面－撫で 外面－撫で 底部－回転糸切り痕　4／5残
3	土師器	坏	3.2，13.8，6.8	細かい赤色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内面－みこみ部に放射状の暗文？ 外面－体部下部～底部ヘラ削り　1／6残
4	土師器	坏	4.0，14.5，10.9	密、少量の雲母、赤・白色粒子を含む	橙色	内面－みこみ部は放射状暗文の回りに円状に暗文がめぐる、体部は磨き、あるいは暗文が施されるが不鮮明 外面－体部撫で 底部－静止糸切り後、ヘラ削り　1／2残
5	土師器	坏	3.3，13.3，7.5	細かい雲母、白・赤・黒色粒子を含む	にぶい黄褐色～灰褐色 橙色～灰褐色	内面－漆及び漆紙付着 外面－体部下半ヘラ削り 底部－静止糸切り後、ヘラ削り　1／2残
6	土師器	坏	4.0，10.9，5.2	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	内面－放射状暗文 外面－体部刻書、下部回転ヘラ削り　1／4残
7	土師器	甕	－，－，9.5	やや粗い砂粒を含む	橙色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目 底部－木葉痕　胴下部～底部破片
8	土師器	甕	－，24.0，－	白色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	外面－縦刷毛目 口縁部～胴部破片
9	土師器	甕	－，25.3，－	白色粒子を含む	にぶい橙色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部～胴部破片
10	土師器	甕	－，23.2，－	やや粗い赤・白色粒子を含む	にぶい橙色一部橙色	内面－横刷毛目 外面－口縁部横撫で、胴部縦方向のヘラ削り 口縁部～胴部破片
11	土師器	甕	－，23.5，－	白色粒子を含む	浅黄橙色～橙色 橙色	内面－口縁部横撫で 外面－縦刷毛目　口縁部～胴部破片
12	土師器	甕	－，24.8，－	砂粒を含む	にぶい橙色 にぶい赤褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　1／6残
13	土師器	小型壺	－，9.6，－	細かい赤・白・黒色粒子を含む	淡橙色 浅黄橙色	内外面－横撫で 口縁部～胴部破片
14	鉄					

＜2号住居址出土遺物＞　（第16図）

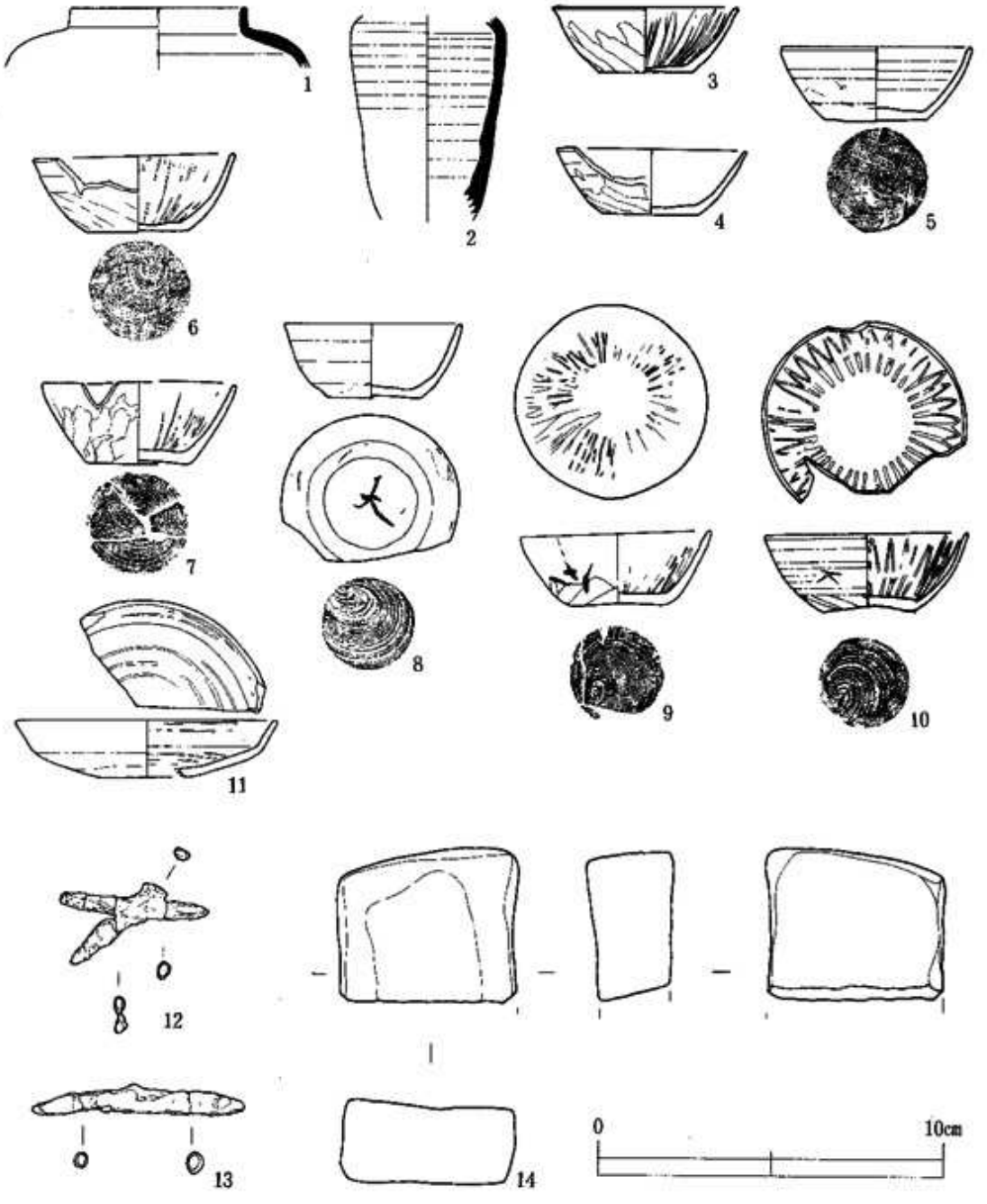
（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	蓋	－，15.6，－	白色粒子を含む	灰白色	ロクロ撫で 外面－自然釉がかかっている 口縁部～体部破片



第15図　1号住居址出土遺物　(1／4)

第16図　2号住居址出土遺物　(1／4)



第17図　3号住居址出土遺物 (1／4) ・石器 (1／2)

＜3号住居址出土遺物＞　（第17図）

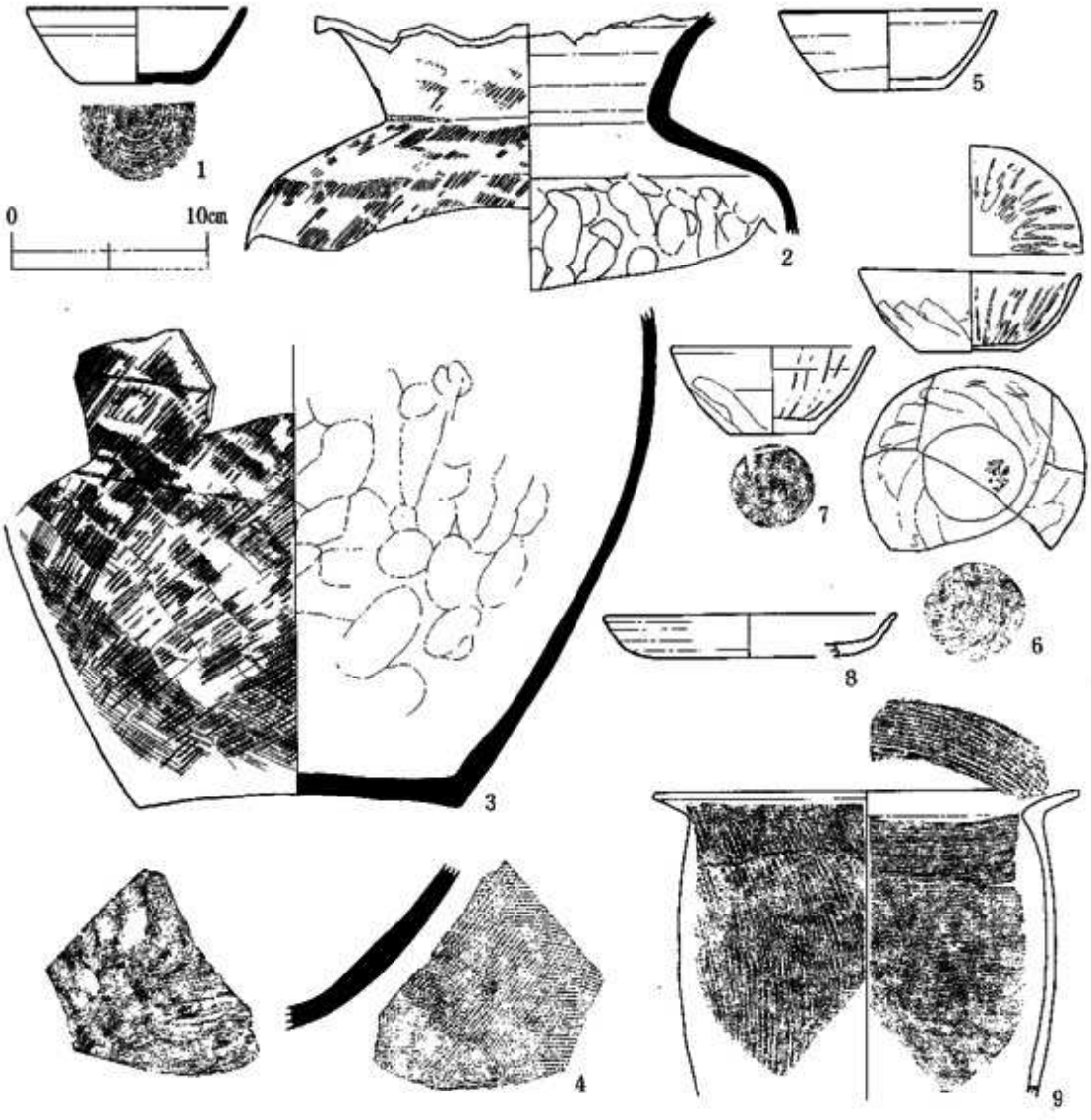
（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	壺	―, 9.8, ―	白色粒子を含む	黄灰色	内外面―横撫で 口縁部～胴部破片
2	須恵器	長頸壺	―, ―, ―	白・黒色粒子を含む	灰色 オリーブ灰色	ロクロ整形痕がみられる 胴部破片
3	土師器	坏	3.8, 10.4, 5.3	赤・白色粒子を含む	橙色	内面―体部花弁状(？)暗文 外面―体部中程より底部はヘラ削り　1／6残
4	土師器	坏	3.7, 10.7, 5.4	赤・白色粒子を含む	橙色 橙色一部灰白色	外面―体部下半、底部ヘラ削り 2／3残
5	土師器	坏	4.2, 10.6, 5.9	赤・白色粒子を含む	橙色	内面―横撫で 外面―体部にヘラ削り痕がかすかに認められる。底部は手持ちヘラ削り　2／5残
6	土師器	坏	4.3, 11.3, 5.7	粗い赤色粒子と細かい雲母を含む	橙色～にぶい橙色 橙色	内面―体部放射状暗文 外面―体部下半にヘラ削り、底部回転糸切り痕 器面全体磨滅がはげしくザラついている為、各特徴は不鮮明　4／5残
7	土師器	坏	4.7, 10.8, 5.9	細かい雲母、赤・白色粒子を含む	橙色	内面―体部暗文 外面―体部ヘラ削り、底部回転糸切り痕が見られるが磨滅により不鮮明　1／2残
8	土師器	坏	4.2, 9.9, 5.2	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色	内面―横撫で 外面―体下部回転ヘラ削り、底部回転糸切り後、墨書あり　3／4残
9	土師器	坏	4.0, 10.7, 5.5	雲母を含む	にぶい橙色 橙色	内面―暗文あり、一部黒変 外面―体部下半にヘラ削り、体部に墨書、底部に回転糸切り痕あり　ほぼ完形
10	土師器	坏	4.5, 11.5, 4.9	赤色粒子、雲母を含む	橙色	内面―花弁状暗文 外面―体下部ヘラ削り、体部に刻書、底部回転糸切り後ヘラ削り　2／3残
11	土師器	皿	3.2, 14.6, 5.2	赤色粒子を含む	橙色	内面―みこみ部～体部にかけ渦巻状の暗文がみられる 外面―体下部～底部に回転ヘラ削り　2／5残
12	鉄器	ハサミ？				
13	鉄器	刀子				
14	石器	砥石	現長　巾　厚 4.3, 5.1, 2.4	石材 アプライト	灰白色	折損している。 全面磨かれているが、中心部が特に研磨されている。

＜4号住居址出土遺物＞　（第18図）

（単位　cm）

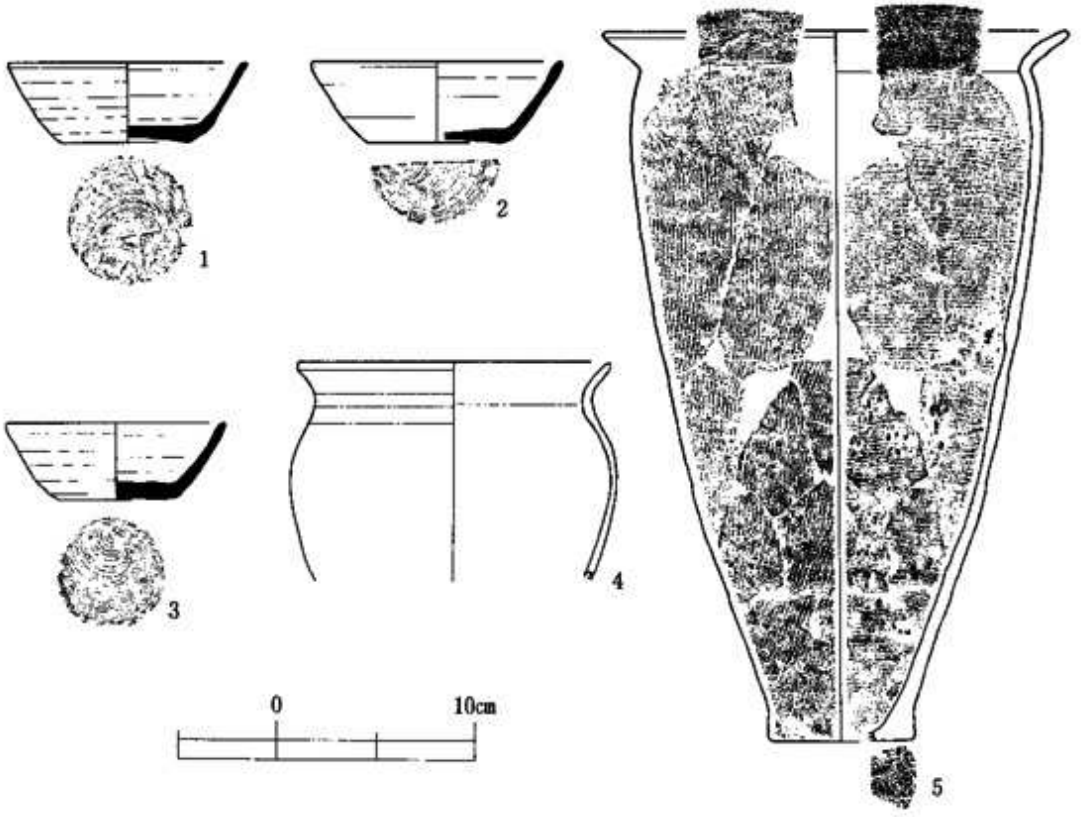
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.9, 11.2, 5.7	白・赤色粒子を含む	浅黄色 灰黄色	内外面―横撫で 底部回転糸切り痕　1／2残
2	須恵器	甕	―, ―, ―	白・黒色粒子を含む	灰色	内面―胴部に指頭痕あり 外面―叩き目後撫で　口縁部～胴部破片
3	須恵器	甕	―, ―, 16.6	白・黒色粒子を含む	灰色 黒色～灰色	内面―指頭痕あり 外面―叩き目 内外面に自然釉がかかっている 底部―棒状にのばし後、渦巻にまいて形を整えている　胴部～底部の破片
4	須恵器	甕	―, ―, ―	白色粒子が目立つ	灰色	内面―下部は横刷毛目、上部は当て具痕か？ 外面―叩き目　胴下部破片



第18図　4号住居址出土遺物　(1／4)

(単位　cm)

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調(内面/外面)	整形・特徴・その他
5	土師器	坏	4.2, 11.1, 5.6	細かい白色粒子を含む	橙色一部浅黄橙色	内面ー一部暗文らしきものが見えるが不鮮明 外面ー体下部は横走するヘラ削り、底部回転ヘラ削り　1／2残
6	土師器	坏	4.2, 11.3, 5.2	白色粒子を少量と赤色粒子を多く含む	橙色 橙色一部浅黄橙色	内面ー放射状暗文 外面ー体部下半ヘラ削り、底部回転糸切り痕と墨書がみられる　4／5残
7	土師器	坏	4.6, 10.4, 4.2	赤色粒子が目立つ	橙色	内面ー放射状暗文 外面ー体部下半ヘラ削り、底部回転糸切り後、ヘラ削り　3／4残
8	土師器	皿	ー, 15.0, ー	赤・白色粒子を含む	橙色	底部回転ヘラ削り 口縁部〜底部破片



第19図　5号住居址出土遺物　(1／4)

(単位　cm)

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調 (内面/外面)	整形・特徴・その他
9	土師器	甕	—, 21.7, —	白色粒子、雲母を含む	橙色 明赤褐色	内面—横刷毛目、口縁部横撫で 外面—縦刷毛目　口縁部〜胴部破片

＜5号住居址出土遺物＞　(第19図)

(単位　cm)

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調 (内面/外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	4.1, 12.0, 6.3	白色の目立つ砂粒を含む	灰色 灰白色	内外面共に横撫で 底部回転糸切り痕　4／5残
2	須恵器	坏	4.1, 12.6, 7.0	白色の目立つ砂粒を含む	灰白色 灰色	内外面共に横撫で 底部回転糸切り痕　1／2残
3	須恵器	坏	3.9, 11.0, 5.5	白色の目立つ砂粒を含む	灰オリーブ色 灰白色	外面—体部下部から底部にかけ段差がある 底部回転糸切り痕　5／6残
4	土師器	甕	—, 15.8, —	白色粒子、雲母を含む	にぶい橙色	内外面共に口縁部〜頸部横撫で 口縁部〜胴部破片
5	土師器	甕	36.2, 23.5, 7.1	雲母の目立つ砂粒を多く含む	明赤褐色一部黒変 赤褐色	内面—横刷毛目 外面—縦刷毛目 口縁部内外面共に横方向撫で 底部木葉痕　1／5残

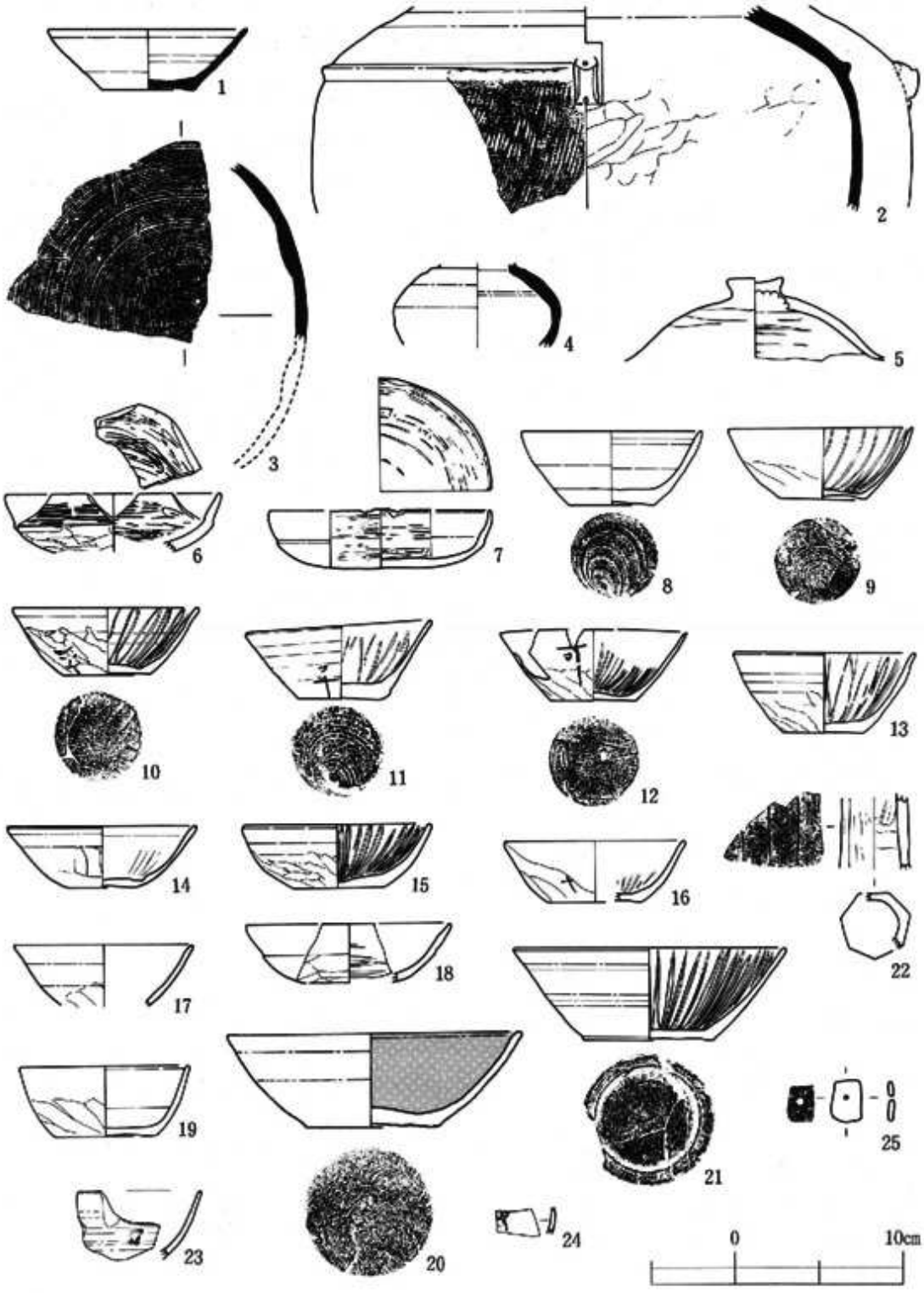
＜6号住居址出土遺物＞　（第20・21・22図）

（単位　cm）

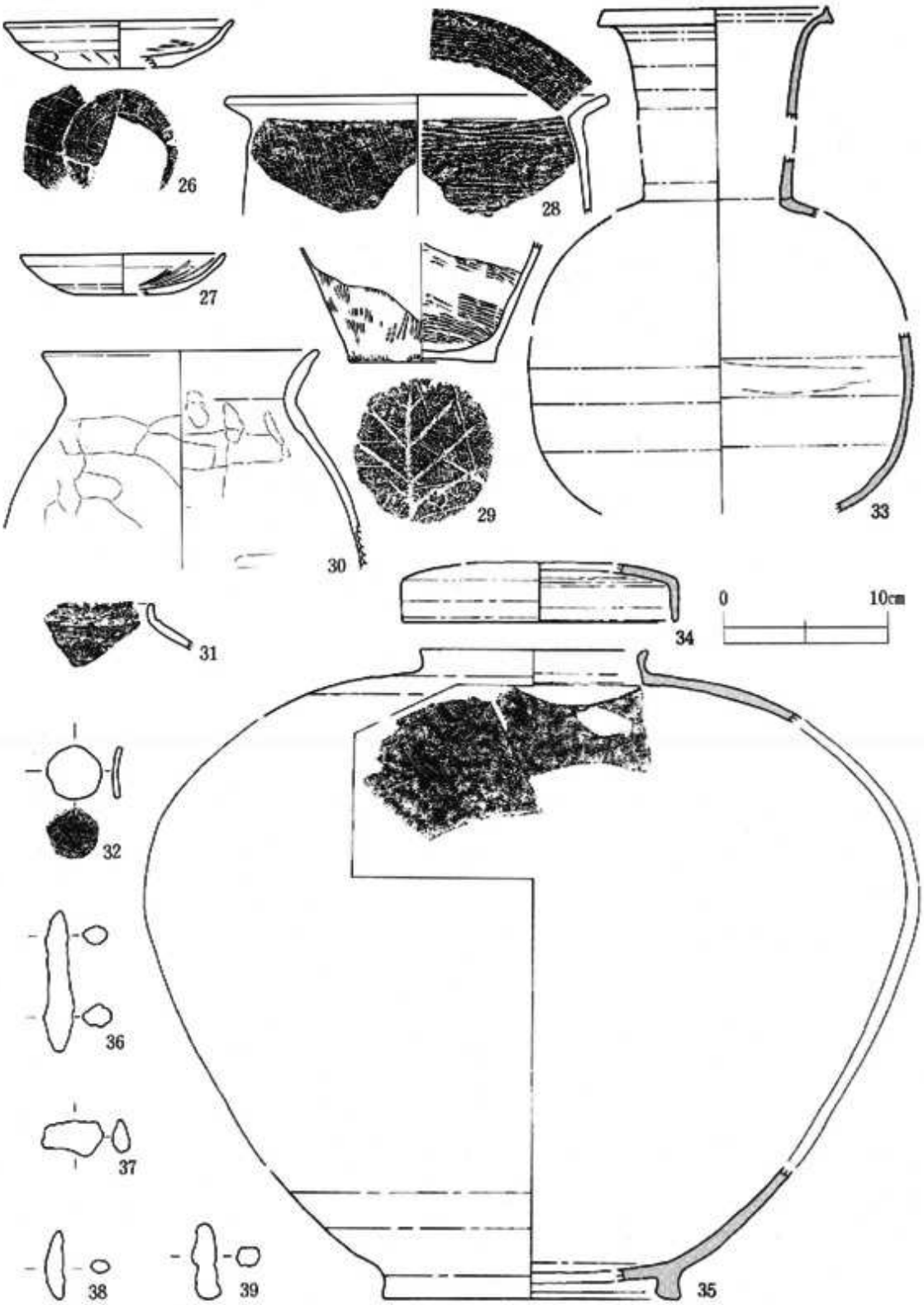
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.7, 11.8, 5.4	白・黒色粒子を含む	灰色	外面－底部回転糸切り痕不鮮明 1／5残
2	須恵器	凸帯付四耳壺	－, －, －	白色粒子を含む	灰色	内面－指頭痕？ 外面－肩部に断面三角形の凸帯が横走し、四ヶ所に耳（穴あり）が付く、肩部から下に叩き目がみられる 肩部付辺の破片
3	須恵器	提瓶	－, －, －	白・黒色粒子を含む	灰白色 灰黄色	外面－体部に同心円状の掻目あり 体部破片
4	須恵器	小壺	－, －, －	白色粒子を含む	褐灰色	ロクロ撫で 破片
5	土師器	壷	－, －, 頸径 3.4	赤・白色粒子、雲母を含む	橙色～にぶい橙色	内面－暗文あり 外面－体上部回転ヘラ削り　1／2残
6	土師器	坏	－, 12.8, －	赤・白色粒子を含む	にぶい赤褐色	内面－暗文あり 外面－体部に暗文、底部はヘラ削り　破片
7	土師器	坏	3.4, 13.4, 6.0	赤・白色粒子を含む	にぶい黄褐色	内面－暗文あり 外面－体部に暗文、底部はヘラ削り　1／2残
8	土師器	坏	4.5, 10.8, 5.2	赤色粒子を含む	橙色	外面－体下部回転ヘラ削り、底部回転糸切り痕 2／5残
9	土師器	坏	4.3, 11.0, 5.0	赤・白色粒子、雲母を含む	褐色 橙色	内面－暗文あり 外面－体部下半ヘラ削り、底部回転糸切り後、外周ヘラ削り　4／5残
10	土師器	坏	4.1, 11.0, 5.1	赤色粒子が目立つ	橙色	内面－暗文あり 外面－体部ヘラ削り、墨書がみられる、底部回転糸切り後、外周ヘラ削り　9／10残
11	土師器	坏	4.4, 11.0, 5.2	赤色粒子が目立つ	橙色	内面－暗文あり 外面－体部に墨書あり、底部回転糸切り痕 ほぼ完形
12	土師器	坏	4.3, 11.2, 5.2	赤・白・黒色粒子を含む	明赤褐色	内面－暗文あり 外面－体部下半ヘラ削り、墨書がみられる、底部回転糸切り後、ヘラ削り　3／5残
13	土師器	坏	4.9, 10.7, 4.8	赤・白・黒色粒子を含む	橙色	内面－暗文あり 外面－体部下半・底部ヘラ削り　1／3残
14	土師器	坏	3.7, 11.2, 4.2	赤・白・黒色粒子を含む	にぶい橙色	内面－暗文あり（磨滅により不鮮明） 外面－体部下半・底部ヘラ削り　1／5残
15	土師器	坏	3.9, 11.1, 5.4	赤・白・黒色粒子を含む	にぶい橙色 橙色（一部黒変）	内面－暗文あり 外面－体部下半・底部ヘラ削り　ほぼ完形
16	土師器	坏	3.7, 10.7, 5.6	赤色粒子が目立つ	橙色	内面－暗文あり（磨滅により不鮮明） 外面－体部・底部ヘラ削り、体部に墨書あり 1／5残
17	土師器	坏	－, 10.8, －	赤色粒子が目立つ	橙色～にぶい橙色	外面－体下部ヘラ削り 破片
18	土師器	坏	－, 12.2, －	赤・白色粒子を含む	にぶい赤褐色 黒褐色	内面－暗文あり 外面－体下部・底部ヘラ削り　破片
19	土師器	坏	4.2, 10.0, 6.1	赤・白・黒色粒子を含む	黄橙色	内面－暗文あり（磨滅により不鮮明） 外面－体部下半・底部ヘラ削り　2／5残
20	土師器	坏	5.7, 17.4, 7.8	砂粒を含む	黒色 橙色	内黒 外面－底部回転糸切り痕　4／5残
21	土師器	坏	5.6, 16.2, 7.8	赤・白・黒色粒子を含む	橙色～にぶい橙色	内面－暗文あり 外面－底部削り出し高台　2／5残
22	土師器	高坏	－, －, －	緻密	明赤褐色	内面－横撫での後、縦刷毛目か？ 外面－丁寧な削りによる多角形を形成している 脚部破片

（単位　cm）

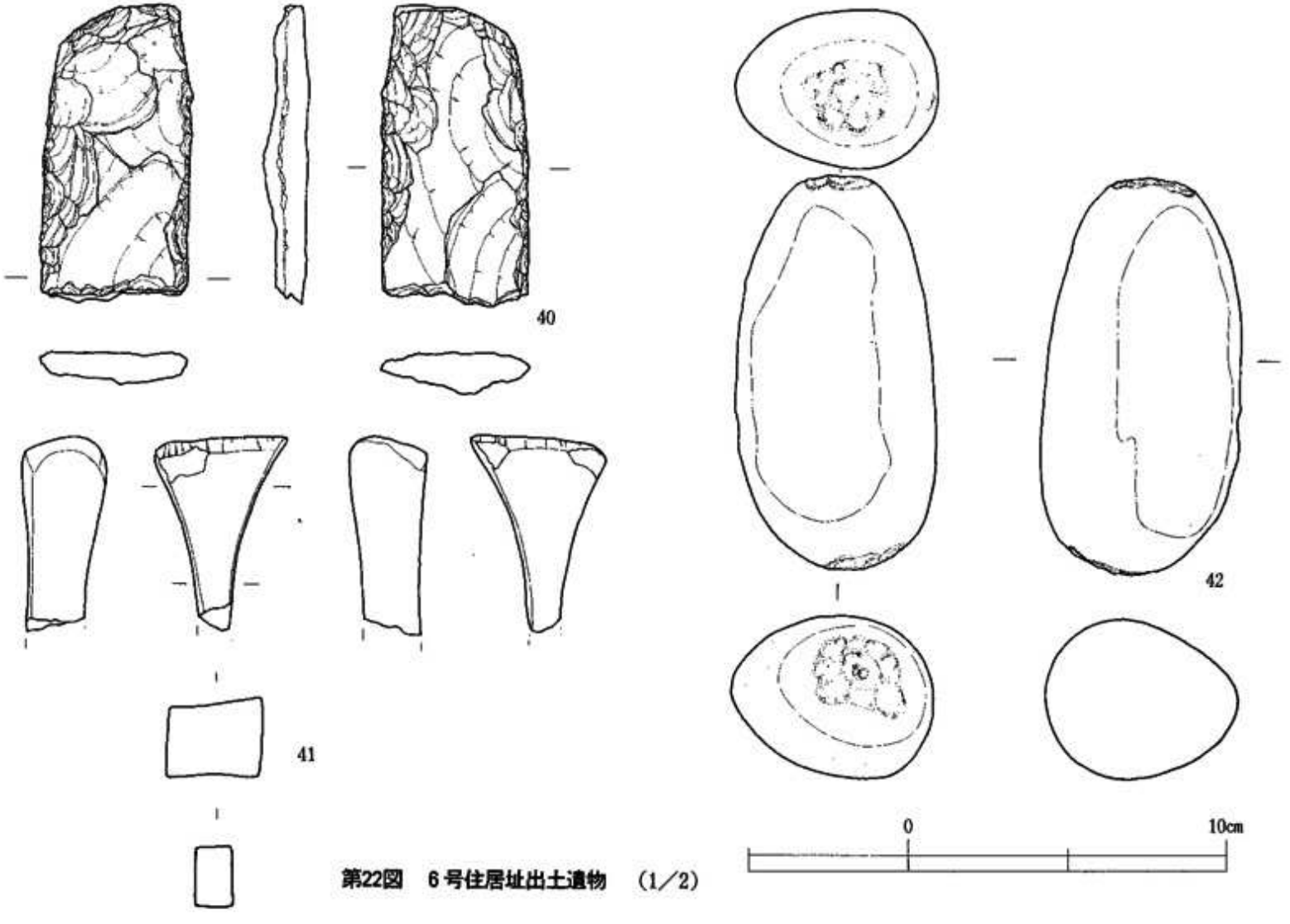
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
23	土師器	坏	—，—，—	赤色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	外面—体部に墨書あり 破片
24	土師器	坏？	—，—，—	赤色粒子を含む	橙色	外面—体部に墨書あり 破片
25	土師器	坏	—，—，—	赤・白色粒子を含む	橙色	体部に穿孔あり 破片
26	土師器	皿	2.9，14.2，6.6	赤・白色粒子と少量の雲母を含む	橙色	内面—渦巻状暗文 外面—体部下半・底部回転ヘラ削り、体部に線刻が見られる　1／3残
27	土師器	皿	2.5，12.5，5.7	細かい雲母のまじる砂粒を含む	橙色	内面—放射状暗文が施される 外面—体部下部・底部ヘラ削り　1／2残
28	土師器	甕	—，23.1，—	雲母、赤・白・黒色粒子を含む	にぶい褐色	内面—横刷毛目 外面—縦刷毛目　口縁部～胴部破片
29	土師器	甕	—，—，9.0	雲母、赤・白・黒色粒子を含む	明褐色	内面—横刷毛目 外面—縦刷毛目、底部木葉痕　1／5残
30	土師器	壺	—，16.8，—	白・黒色粒子と小礫を含む	明黄褐色	口縁部—内外横撫で 内面—ヘラ撫で、指頭痕あり 外面—ヘラ削り　1／5残
31	土師器	壺	—，—，—	砂粒を多く含む	浅黄橙色 にぶい褐色	口縁部に刻み痕がみられる 口縁部破片
32	土製品		—，—，—	白・黒・赤色粒子を含む	橙色	円板 内外面—撫で
33	施釉陶器？	壺	—，13.8，—	白色粒子の目立つ砂粒と小礫を含む	灰白色、頸部にぶい褐色 にぶい赤褐色一部灰白色	ロクロ成形 釉がかかっている 1／5残
34	施釉陶器？	蓋	3.7，16.7，—	白・黒色粒子を含む	黄灰色 灰オリーブ色 縁端部灰色	ロクロ成形 釉がかけられている 1／3残
35	施釉陶器？	壺	39.9，13.8，17.9	白・黒色粒子を含む	灰白色 オリーブ黄色	ロクロ成形 釉がかけられている 内面には撫でによる青海波状痕がわずかにみられる　破片
36	鉄					
37	鉄					
38	鉄					
39	鉄					
40	石器	打製石斧	長　巾　厚 8.9，4.5，1.4	（石材） 頁岩	暗灰色	刃部欠損しているが、折れた後も再度調整剥離して使用したと思われる。端部と中心部に使用と柄の装着によると思われる磨滅と光沢が見られる。
41	石器	砥石	長　巾　厚 6.0，4.0，2.6	（石材） 石英安山岩		表裏左右面とも研磨されている。
42	石器	磨石敲石	長　巾　厚 12.2，6.2，4.9	（石材） 石英安山岩		側面には研磨痕があり。 天地面には敲打痕がある。



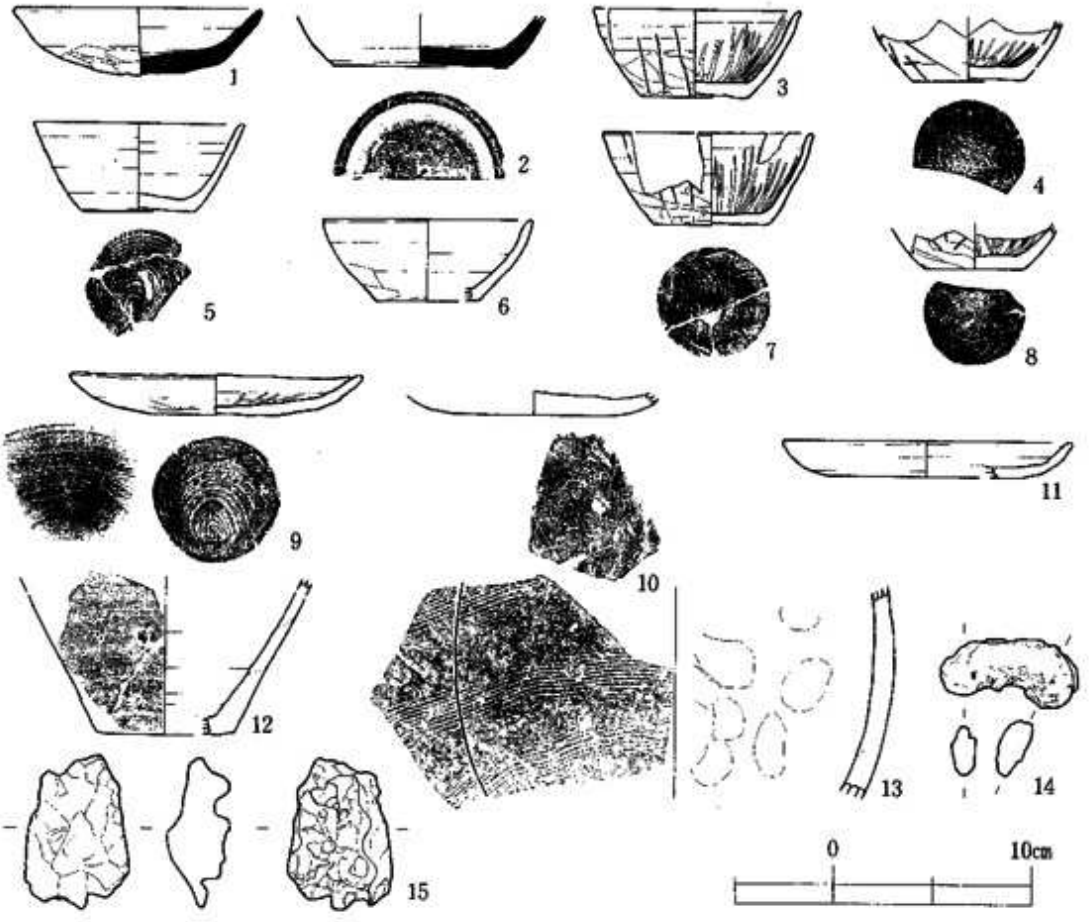
第20図　6号住居址出土遺物　(1／4)



第21図　6号住居址出土遺物　(1／4)



第22図　6号住居址出土遺物　(1／2)



第23図　7号住居址出土遺物　(1／4)

＜7号住居址出土遺物＞　(第23図)

(単位　cm)

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.5、12.6、8.4	赤・白色粒子を含む	黄灰色 褐灰色	外面一体下部～底部にかけて粗いヘラ削り 3／4残
2	須恵器	坏	―、―、8.8	赤・白色粒子を含む	浅黄色 灰黄色～橙色	削り出し高台 1／4残
3	土師器	坏	4.5、10.5、5.4	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色	内面一放射状暗文 外面一体部線刻、体下部・底部ヘラ削り 3／5残
4	土師器	坏	―、―、5.7	赤・白色粒子と雲母を含む	灰白色 黄橙色	内面一放射状暗文 外面一体部線刻、底部回転糸切り後ヘラ削り 2／5残
5	土師器	坏	4.5、10.7、5.6	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色	内外ともに横撫で 底部回転糸切り痕 2／5残
6	土師器	坏	4.2、10.6、5.2	赤・白色粒子を含む	黄橙色	外面一体下部ヘラ削り 2／5残
7	土師器	坏	4.7、10.7、5.8	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色 浅黄橙色～灰黄褐色	内面一横撫で、放射状暗文 外面一横撫で、体部線刻、体下部ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り　4／5残

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
8	土師器	坏	—，　—，　5.0	赤色粒子を含む	浅黄橙色 橙色～明黄褐色	内面—暗文あり 外面—体下部ヘラ削り、線刻、底部回転糸切り後ヘラ削り　体下部～底部破片
9	土師器	皿	2.1，14.8，　6.4	赤・白色粒子を含む	橙色	内面—放射状暗文 外面—線刻、体下部回転ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り　完形
10	土師器	皿	—，　—，　8.2	赤・白色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内外面ともに撫で 底部線刻　底部破片
11	土師器	皿	1.8，14.5，　9.6	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色	内外面ともに撫で 体下部ヘラ削り　口縁部～体下部破片
12	土師器	甕	—，　—，　7.0	赤・白色粒子と雲母を含む	明赤褐色 橙色～暗赤褐色	内面—撫で 外面—横方向刷毛目　胴下部～底部破片
13	土師器	甑？	—，　—，　—	粗い砂粒を含む	にぶい橙色 赤褐色～橙色	外面—櫛歯状工具による文様が横走する　破片
14	鉄	？				
15	鉄	？				

＜9号住居址出土遺物＞　（第24図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	甕	—，　—，　—	赤・白色粒子と雲母を含む	橙色 橙色～灰褐色	内面—横撫で 外面—叩き目　破片
2	須恵器	凸帯付四耳壺	—，　—，　—	白・黒色粒子を含む	灰色 オリーブ黒色	内面—当て具痕か？ 外面—自然釉がかかっている。肩部に断面三角形の凸帯が横走し、四ヶ所に縦に貫通した穴をもつ耳がついている。　肩部破片
3	須恵器	坏	4.3，11.2，　5.7	白色粒子を含む	灰色～灰オリーブ色	底部回転糸切り痕　口縁部一部欠損
4	須恵器	坏	4.1，11.5，　5.7	赤・白色粒子を含む	橙色～灰褐色 橙色～にぶい黄橙色	内外面ともに横撫で 底部回転糸切り痕　口縁部一部欠損
5	土師器	坏	—，10.5，　—	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	内面—横撫で 外面—体下部ヘラ削り　破片
6	土師器	坏	—，　—，　—	赤色粒子を含む	橙色	内面—花弁状暗文 外面—墨書あり　破片
7	土師器	坏	4.3，11.0，　5.5	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色～橙色	体下部、底部にかけてヘラ削り　9／10残
8	土師器	坏	4.1，11.5，　5.7	砂粒を含む	浅黄色 にぶい橙色	内外面—横撫で 底部回転糸切り痕　3／5残
9	土師器	坏	4.5，10.5，　5.0	赤・白色粒子を含む	橙色～灰白色 橙色～浅黄橙色	内面—横撫で 外面—横撫で、体部線刻、底部回転糸切り痕　3／4残
10	土師器	坏	4.2，10.9，　5.3	砂粒を含む	橙色～にぶい橙色 橙色	内面—暗文あり 外面—墨書、体部ヘラ削り、底部回転糸切り後ヘラ削り　7／8残
11	土師器	坏	4.0，10.6，　5.3	砂粒を含む	橙色 橙色～にぶい黄橙色	内面—暗文あり 外面—体下部ヘラ削り、墨書、底部回転糸切り後ヘラ削り　完形

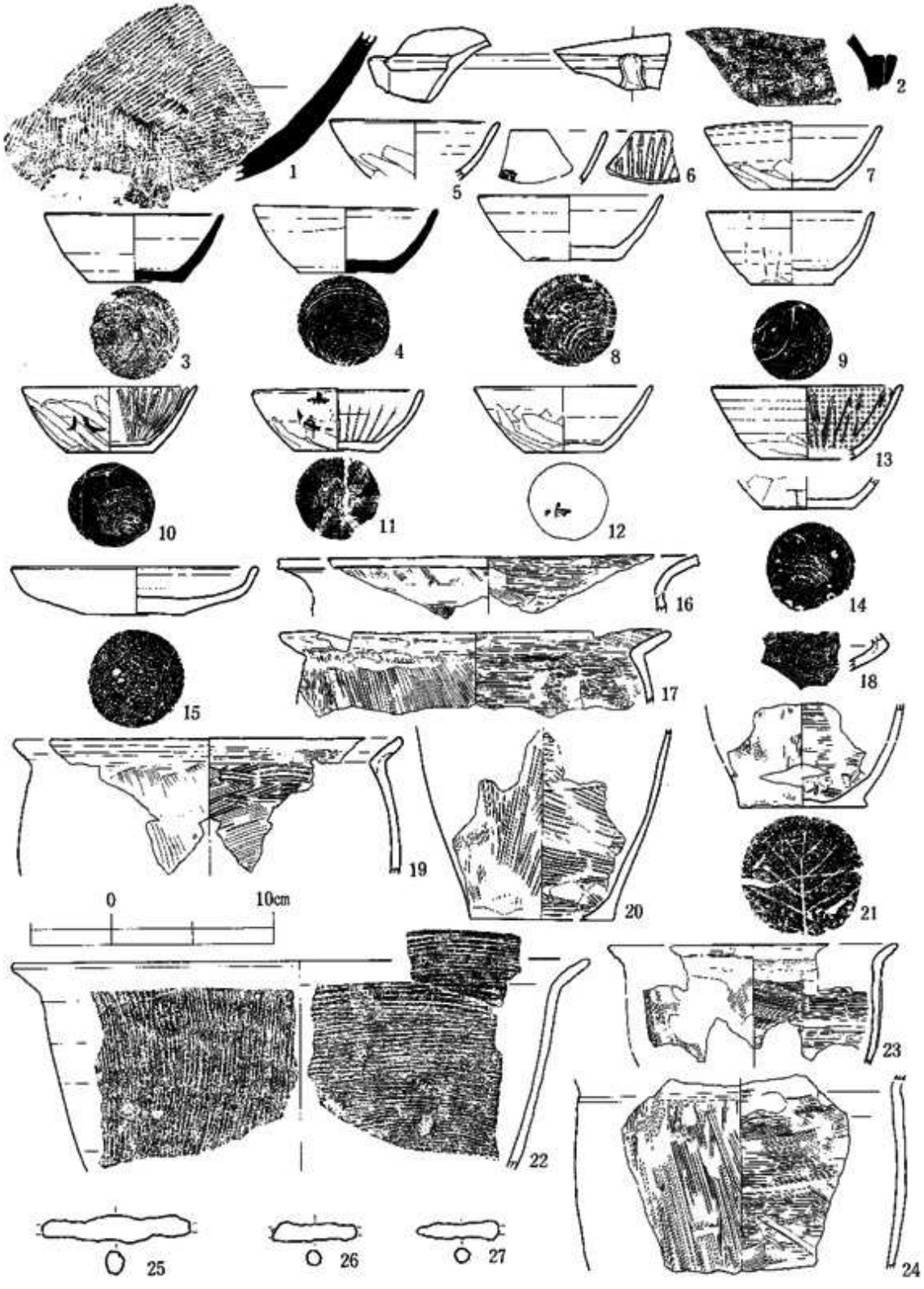
（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
12	土師器	坏	4.9, 11.1, 4.1	赤・白色粒子を含む	橙色	外面－体下部ヘラ削り 底部ヘラ削り、墨書あり　1／2残
13	土師器	坏	4.6, 11.8, 5.6	赤・黒色粒子、雲母を含む	黒褐色 明赤褐色	内黒 内面－暗文あり 外面－体下部ヘラ削り　1／5残
14	土師器	坏	－, －, 5.5	赤・白色粒子を含む	橙色 橙色～浅黄橙色	外面－体部に線刻あり、底部回転糸切り後ヘラ削り　1／3残
15	土師器	皿	3.0, 15.2, 6.0	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色 橙色～浅黄橙色	内外面－横撫で 底部回転糸切り痕　口縁部一部欠損
16	土師器	甕	－, 26.1, －	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 にぶい褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部破片
17	土師器	甕	－, 24.3, －	砂粒及び雲母を含む	にぶい褐色～灰褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部破片
18	土師器	甕	－, －, －	砂粒を含む	暗赤褐色	内外面－撫で　破片
19	土師器	甕	－, 24.0, －	砂粒と雲母を含む	にぶい赤褐色	内面－横刷毛目 外面－口縁部横撫で、胴部縦刷毛目　口縁部～胴部破片
20	土師器	甕	－, －, 9.0	砂粒を含む	橙色～にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	内面－横刷毛目、指頭痕がみられる 外面－縦刷毛目、底部に木葉痕が僅かに見られる　胴部～底部破片
21	土師器	甕	－, －, 7.8	砂粒、雲母を含む	にぶい赤褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目、底部木葉痕　胴下部～底部破片
22	土師器	甕	－, 36.0, －	砂粒、雲母を含む	にぶい橙色～灰褐色 灰褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部～胴部破片
23	土師器	甕	－, 17.6, －	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色～黒褐色 明赤褐色～暗赤褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目　口縁部～胴部破片
24	土師器	甕	－, －, －	砂粒を含む	にぶい褐色～灰褐色	内面－指頭痕、横刷毛目 外面－縦刷毛目　胴部破片
25	鉄					
26	鉄					
27	鉄					

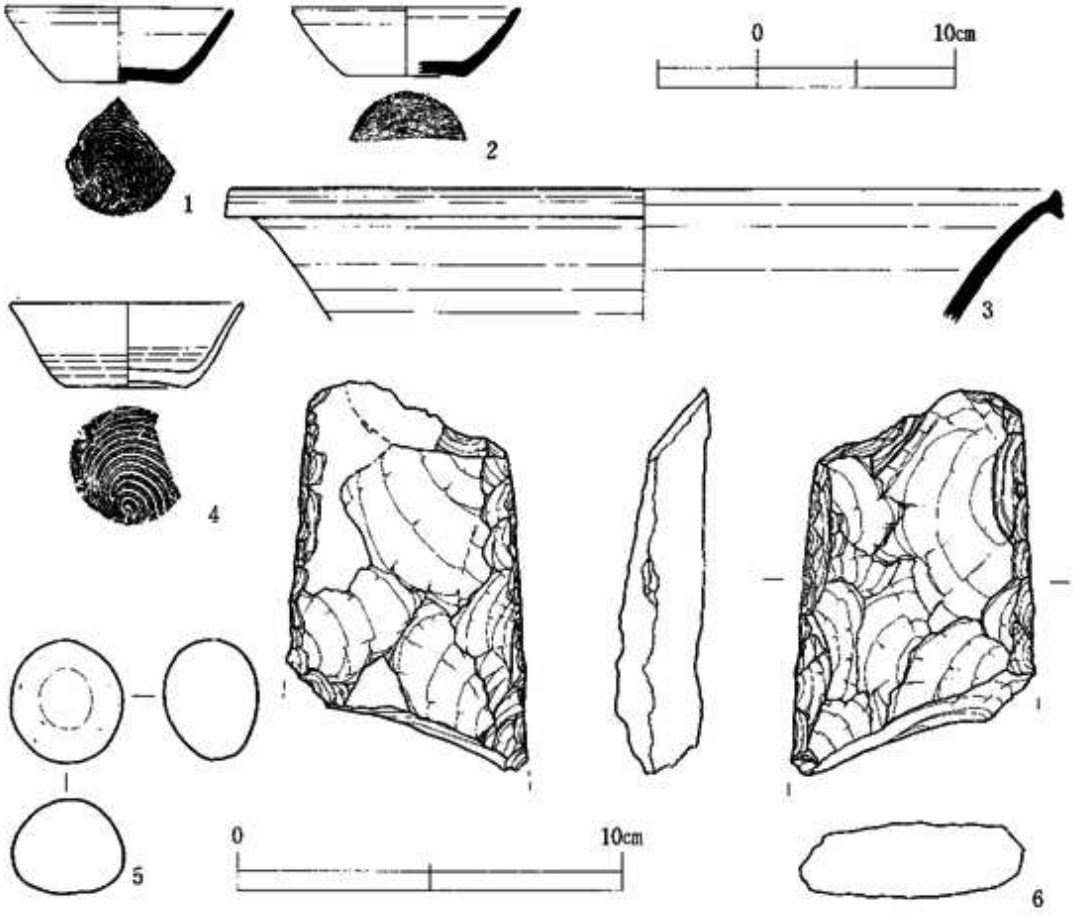
＜10号住居址出土遺物＞　（第25図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.8, 11.6, 6.0	白色粒子を含む	明オリーブ灰色 オリーブ灰色	底部回転糸切り痕　1／3残
2	須恵器	坏	3.5, 11.4, 6.0	白色粒子を含む	緑灰色	底部回転糸切り後ヘラ削り　1／4残
3	須恵器	甕	－, 42.0, －	白・黒色粒子、小礫を含む	灰色	内外面－横撫で　口縁部破片
4	土師器	坏	4.3, 11.8, 6.2	赤・黒・白色粒子を含む	灰白色	底部回転糸切り痕　1／3残
5	石器	磨石？	長 3.1, 巾 2.9, 厚 2.4	（石材）花崗岩	にぶい橙色	全体に磨かれている。



第24図　9号住居址出土遺物　(1／4)



第25図　10号住居址出土遺物（1／4）・石器（1／2）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
6	石器	打製石斧	現長 9.7、巾 5.8、厚 2.2	(石材)ホルンフェルス化した粘板岩		刃部欠損している 中心部若干磨痕が見られる 基部にも使用痕がある

＜11号住居址出土遺物＞　（第26図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	4.5、11.4、5.6	白色の目立つ砂粒を含む	黄灰色～黄橙色 褐灰色～にぶい黄橙色	内外面－横撫で、底部暗雲あり 底部回転糸切り痕 口縁部一部欠損
2	須恵器	坏	4.4、11.6、5.8	白色粒子を多く含む	灰色	内外面－横撫で 外面－口縁部ザラついている、底部回転糸切り痕　口縁部一部欠損
3	須恵器	坏	4.1、11.0、6.5	白色の目立つ砂粒を含む	黄灰色	内外面－横撫で 底部回転糸切り痕　1／2残

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
4	須恵器	坏	5.7, 16.7, 7.5	白色の目立つ砂粒を含む	灰白色 灰色	内外面－横撫で 底部回転糸切り後、削り出し高台　1／2残
5	須恵器	坏	3.9, 11.5, 6.5	白色の目立つ砂粒を含む	灰黄色	内外面－横撫で 底部回転糸切り痕　口縁部一部欠損
6	須恵器	坏	4.1, 11.5, 6.3	砂粒を含む	灰黄褐色	内外面－横撫で 底部回転糸切り痕　3／4残
7	須恵器	甕	－, 22.7, －	細かい白色粒子を含む	灰白色～灰色	口縁部内外横撫で 胴部外面は叩き目、内面に当て具痕がみられる　口縁部～胴部破片
8	須恵器	甕	－, －, －	赤・白色粒子を含む	浅黄色 にぶい赤褐色	外面－口縁部下部波状文　口縁部破片
9	須恵器	甕	－, 44.0, －	赤・白色粒子と雲母を含む	明オリーブ灰色 にぶい黄褐色	外面－自然釉か？　口縁部破片
10	須恵器	壺	－, 5.4, －	白色粒子を含む	褐灰色	内外面－横撫で　口縁部破片
11	土師器	坏	4.6, 10.8, 6.1	細かい雲母、赤・白色粒子を含む	橙色	内面－体部、みこみ部共に細かく暗文が施されている 外面－体部下半ヘラ削り、底部切り離し後、手持ちヘラで全面ヘラ削り　2／3残
12	土師器	坏	4.6, 11.3, 6.6	細かい雲母、赤色粒子を含む	橙色	内面－みこみ部、体部に放射状暗文 外面－体部ヘラ削り、底部には回転糸切り後、ヘラ削りが見られるが摩滅により器面がザラつき不鮮明　口縁部一部欠損
13	土師器	坏	4.4, 11.6, 6.7	赤色粒子と少量の細かい雲母、白色粒子を含む	橙色一部灰褐色 橙色一部にぶい橙色	内面－みこみ部放射状暗文のまわりに2本の暗文がめぐる、体部下半に雑な暗文 外面－体部下半ヘラ削り、底部回転糸切り後、ヘラ削り　2／3残
14	土師器	甕	－, －, 14.8	白色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内外面－横撫で　胴下部～底部破片
15	土師器	甕	－, －, 13.8	粗めの砂粒を含む	にぶい橙色 浅黄橙色	内外面－横撫で、横走痕がある　胴部下半～底部破片
16	石器	石鏃未成品	現長 巾 厚 重 2.1, 1.9, 0.55, 1.79g	（石材） 黒曜石		折損した後、再度調整剥離している

＜12号住居址出土遺物＞　（第27・28図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	4.0, 13.3, 8.0	白・赤色粒子を含む	褐灰色 赤褐色	底部回転糸切り痕　1／2残
2	須恵器	甕	－, 62.5, －	赤・白色粒子を含む	橙色	内面－横撫で、指頭痕あり 外面－叩き目、横撫で　口縁部～胴部破片
3	土師器	坏	4.5, 14.0, 8.0	赤色粒子を含む	橙色一部にぶい橙色	内面－横撫で、体下部に暗文 外面－横撫で、底部ヘラ削り　1／5残
4	土師器	坏	－, 17.0, －	白色粒子を含む	褐灰色 にぶい黄橙色一部褐灰色	内面－横撫で 外面－体上半部横撫で、体下半部回転ヘラ削り　口縁部～体部破片
5	土師器	皿	－, －, 9.0	赤色粒子を含む	橙色	内面－暗文 外面－回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、墨書あり　底部破片
6	土師器	甕	－, －, 7.4	赤・白色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内面－横撫で 外面－横撫で後ヘラ削り 底部－木葉痕　胴部～底部破片

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
7	土師器	甕	33.5、27.8、8.8	白色粒子、雲母を含む	橙色	内面－横撫で、口縁部横接目 外面－横接目　1／5残
8	土師器	甕	－、28.0、－	赤・白色粒子を含む	にぶい褐色 にぶい橙色	内面－横刷毛目 外面－横撫で後、縦刷毛目が施されている 口縁部～胴部破片
9	土師器	甕	－、20.0、－	雲母、赤・白色粒子を含む	にぶい橙色～にぶい褐色 橙色～にぶい褐色	内面－横撫で 外面－撫で、指頭痕 口縁部～胴部破片
10	土師器	甕	8.8、9.6、5.1	白・赤色粒子、雲母を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	内面－横撫で 外面－撫で、底部木葉痕が残るが不鮮明 1／2残
11	土師器	坏	－、－、11.0	小礫、砂粒を含む	にぶい橙色	内面－撫で 外面－体下部ヘラ削り、底部木葉痕あり 底部破片
12	土師器	甕	－、15.0、－	砂粒を含む	橙色	口縁部横撫で 内面－胴部横撫で 外面－胴部縦ヘラ削り　口縁部～胴部破片
13	土師器	甕	－、23.5、－	粗い赤色粒子、砂粒を含む	橙色～にぶい橙色	口縁部横撫で 内面－横刷毛目 外面－縦撫での後、棒状工具による磨き 口縁部～胴部破片
14	土師器	甕	－、32.4、－	砂粒を含む	暗褐色 にぶい褐色	内面－横撫で、輪積痕あり 外面－胴部に叩き目あり　口縁部～胴部破片
15	土師器	甑	－、－、10.4	砂粒を含む	橙色～にぶい橙色	内面－胴部ヘラ撫で、胴下部縦刷毛目 外面－縦刷毛目　破片
16	土師器	壺	－、－、－	砂粒を含む	灰褐色	口縁部横撫で 口縁部破片
17		手捏ね土器	－、－、3.2	砂粒を含む	灰黄色	手で作ってある 底部破片
18	土師器	甑？	－、－、－	緻密	橙色	小さな穿孔がいくつかみられる 破片
19	土師器	甑？	－、－、－	緻密	橙色	小さな穿孔がいくつかみられる 破片
20	鉄					

＜1号掘立柱建物址出土遺物＞　（第29図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.4、10.6、4.5	赤色粒子、金雲母を含む	橙色 橙色～にぶい橙色	内面－暗文あり 外面－体下部、底部ヘラ削り　1／3残
2	土師器	坏	4.4、10.5、6.0	白色粒子を含む	橙色	内面－暗文あり 外面－体下部、底部ヘラ削り　破片

3・4は鉄製品であるが詳細は不明。

＜1号溝出土遺物＞　（第30・31図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	蓋	－、14.0、－	白・黒色粒子を含む	褐灰色 オリーブ黄色	内外面－横撫で 外面－自然釉がかかっている　口縁部破片

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
2	須恵器	長頸壺	―，―，16.0	白・黒色粒子を含む	灰白色 灰色	内外面―横撫で 外面―底部、付高台　胴部～底部破片
3	土師器	坏	―，―，4.9	赤色粒子を含む	浅黄橙色	外面―底部に刻書あり 底部破片
4	土師器	甕	―，17.6，―	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色 橙色	内外面―横撫で 口縁部破片
5	土師質	鞴の羽口	内径　外径 約2.1，約4.4	粗い白色粒子を含む	灰赤色 灰褐色	外面―融解物が外側全体に付着している 先端部破片
10	石器	磨石？	長　巾　厚 10.7，9.3，5.3	（石材） 軽石		表裏面、やや研磨されているように摩耗している。
11	石器	打製石斧	長　巾　厚 20.7，5.4，3.7	（石材） 石灰質泥岩	暗灰色	刃部―使用による磨滅、光沢があり、縦方向線条痕が発達している 中心部―着柄痕がある

6・7・8・9は鉄製品。6・7・8は詳細は不明。9は基部が折損しているが、（刃先が又状に開いた）狩股の鏃と思われる。

＜1号溝状凹地出土遺物＞　（第32図）

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	鉢	―，18.8，―	白・黒色粒子を含む	黄灰色	内外面―横撫で 口縁部破片
2	須恵器	短頸壺	―，4.3，―	黒色粒子を含む	明褐灰色 灰オリーブ色	内面―横撫で 外面―自然釉がかかっている 薬壺　口縁部破片
3	須恵器	壺G	―，―，―	白・黒・赤色粒子を含む	灰白色 灰白色～灰色	輪積みで成形の後、ロクロによる整形か？ 胴部破片
4	土師器	坏	―，14.1，―	細かい金雲母、白色粒子を含む	橙色	内面―放射状暗文 外面―墨書が見られるが不鮮明、体部下半回転ヘラ削り　1／6残
5	土師器	坏	4.0，11.2，6.0	粗めの赤・白色粒子を多く含む	浅黄橙色 橙色	外面―体部にヘラ削り、底部には回転糸切り後回転ヘラ削りが見られるが、磨滅により器面がザラつき不鮮明　1／4残
6	土師器	高台付坏	―，―，7.7	細かい赤・白色粒子を含む	橙色	ロクロ成形 付高台　底部のみ
7	土師器	鉢	―，20.8，―	細かい雲母少量と粗めの白色粒子を多く含む	黒色 にぶい黄橙色	内面は黒色でていねいに磨かれている 1／6残
11	石器	石台	長　巾　厚 11.0，9.6，3.6	（石材） 角閃石輝石安山岩		石皿とも思われる 表裏面とも研磨されているが、凹部中心部、特に研磨が著しい

8・9・10は鉄製品であるが、詳細は不明。

＜遺構外出土遺物＞　（第33・34・35図）

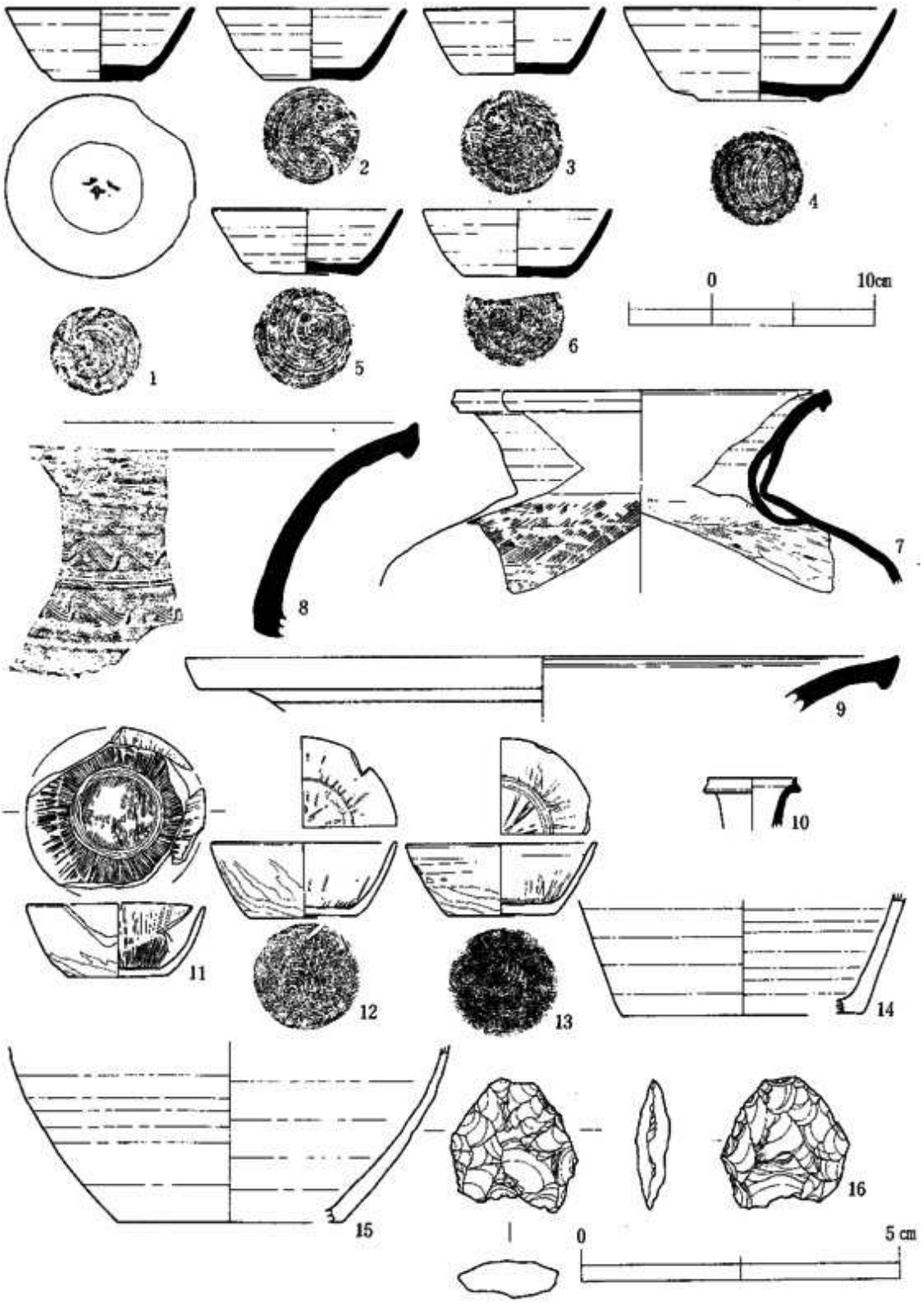
（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	小皿	2.1，8.1，4.4	赤・白色粒子を含む	黄橙色 浅黄橙色	内外面―横撫で、底部回転糸切り痕 口縁部一部欠損

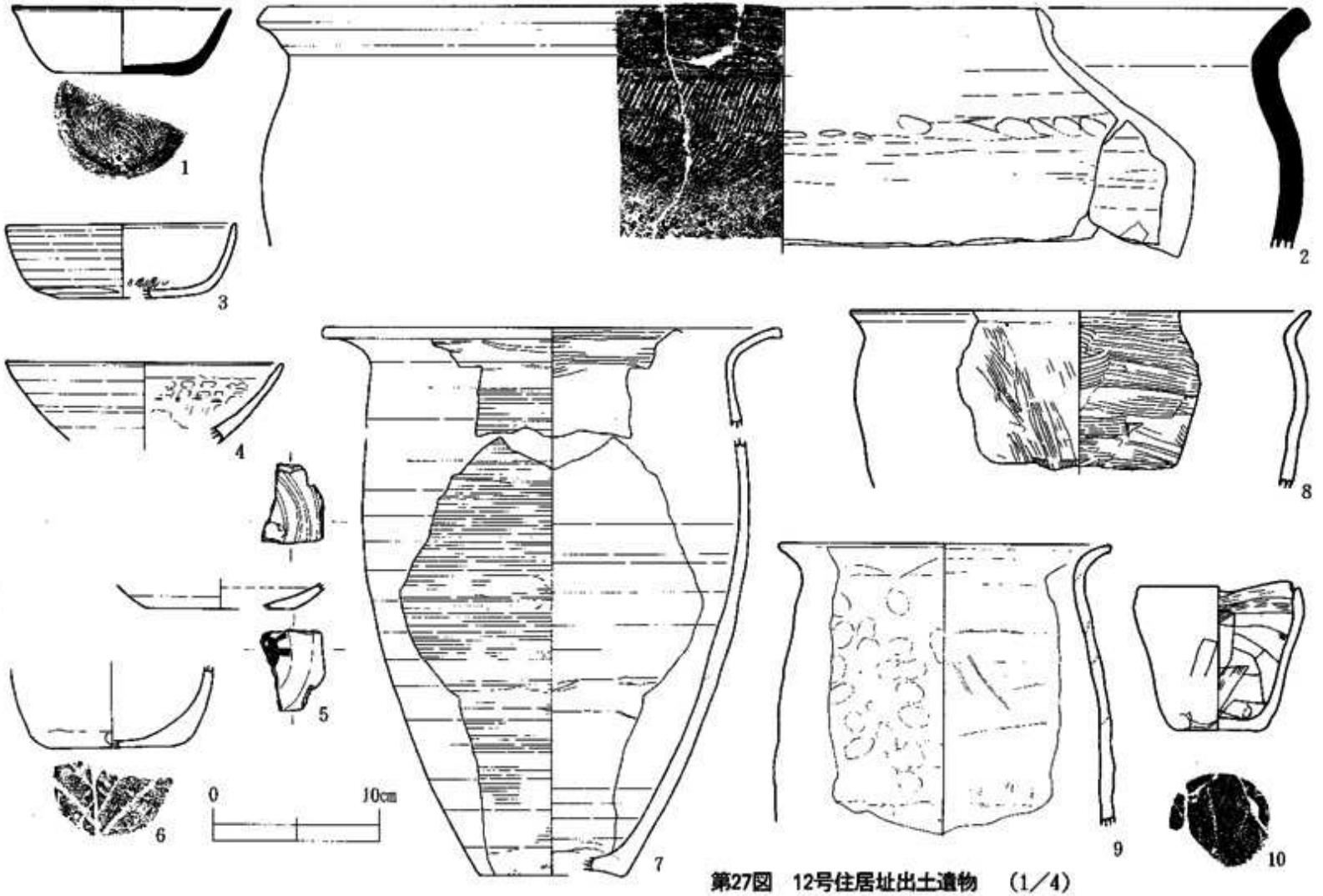
（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
2	土師器	高台付皿	2.8、7.4、3.8	金雲母を多量に含む	橙色 明褐色	底部回転糸切り痕 ほぼ完形
3	土師器	かわらけ	1.6、5.6、4.0	大きめの赤色粒子と白色粒子を含む	橙色	底部回転糸切り痕 1／2残
4	土師器	ミニチュア土器	2.1、3.0、1.6	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色	手捏ね土器 1／2残
5	土師質	内耳土器	7.8、26.6、—	赤・白色粒子と雲母を含む	灰黄褐色 褐灰色～にぶい赤褐色	破片
6	石器	磨石	長　巾　厚 9.1、7.7、6.2	（石材） 石英安山岩		全体に磨かれている
7	石器	打製石斧	長　巾　厚 13.1、5.7、2.1	（石材） 硬砂岩		基部、刃部使用痕の磨滅が見られる 中心部着柄痕の磨滅が見られる
8	石器	尖頭器	現長 最大巾 最大厚 重 4.65、2.1、0.8、6.39g	（石材） 黒曜石		小型の木葉型尖頭器 凸レンズ状に薄く整形してあり、調整も中心線まで達している。周縁の仕上げ調整まで細かく行っており、先端・基部の折損は完成後と思われる。縄文草創期～後期旧石器の所産か？
9	石器	石鏃	長　巾　厚　重 2.05、1.3、0.4、0.75g	（石材） チャート	暗青灰色	凹基有茎石鏃
10	石器	石鏃	現長　巾　厚　重 1.5、—、0.4、0.62g	（石材） 黒曜石		凹基無茎石鏃 先端部、脚部欠損
11	石器	凹石	長　巾　厚 10.9、9.5、7.1	（石材） 安山岩		上下面、側面凹みが見られる

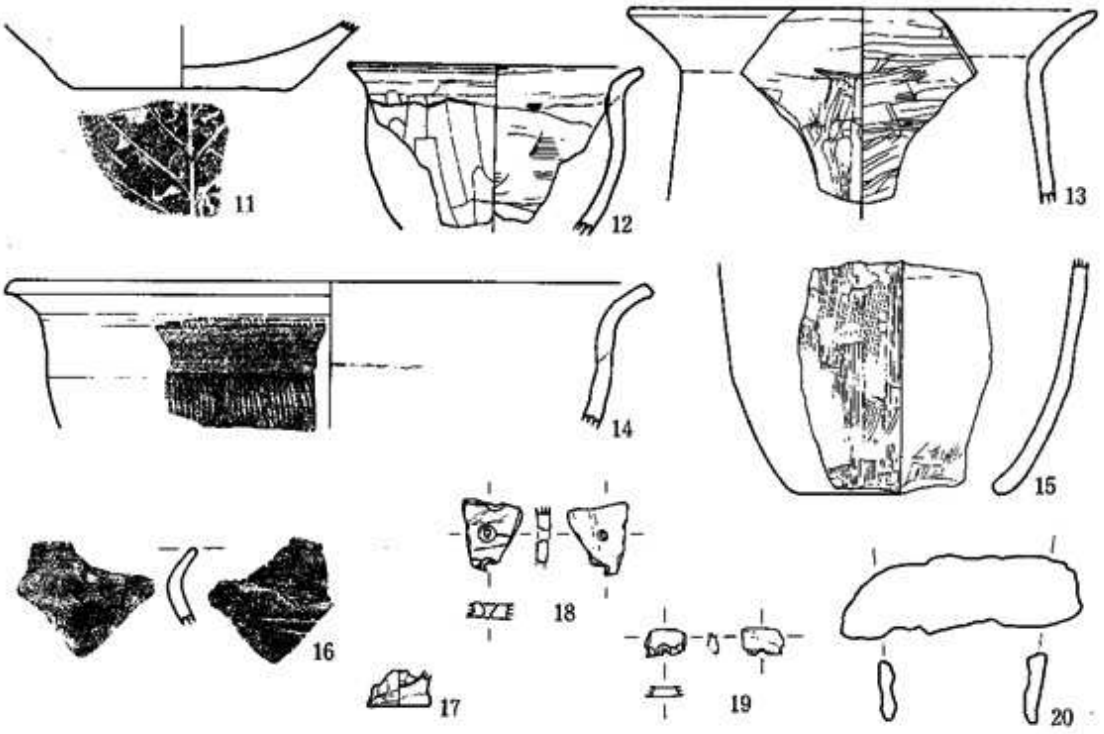
12・13・14は鉄製品であるが、詳細は不明。なお、石器ではないが紅色をした碧玉（ジャスパー／重さ3.4ｇ）が出土している。



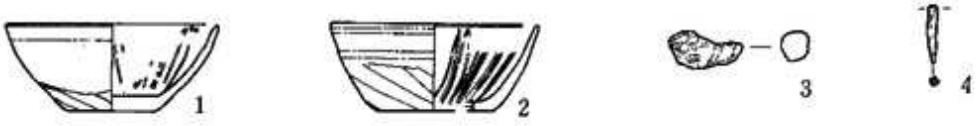
第26図　11号住居址出土遺物（1／4）・石器（1／1）



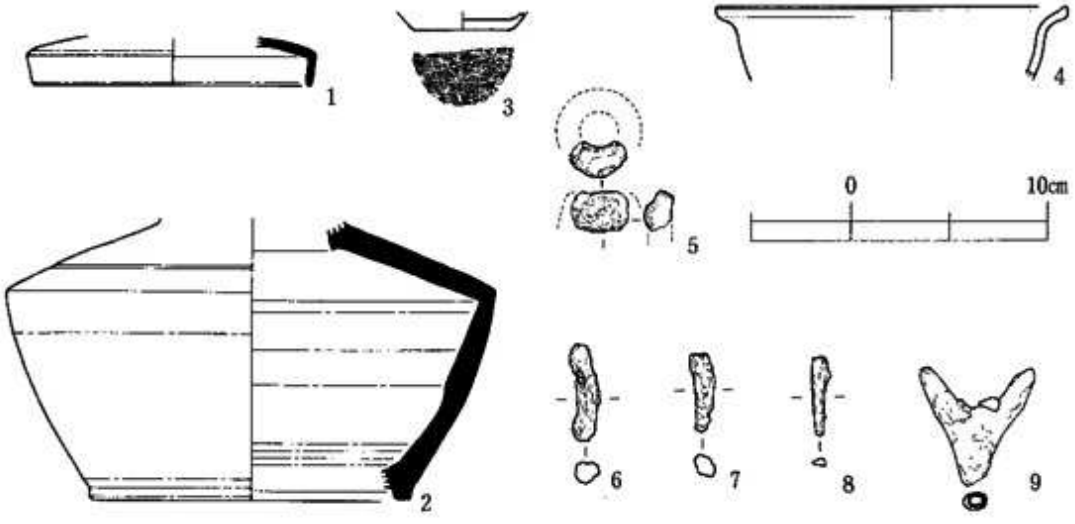
第27図　12号住居址出土遺物　(1／4)



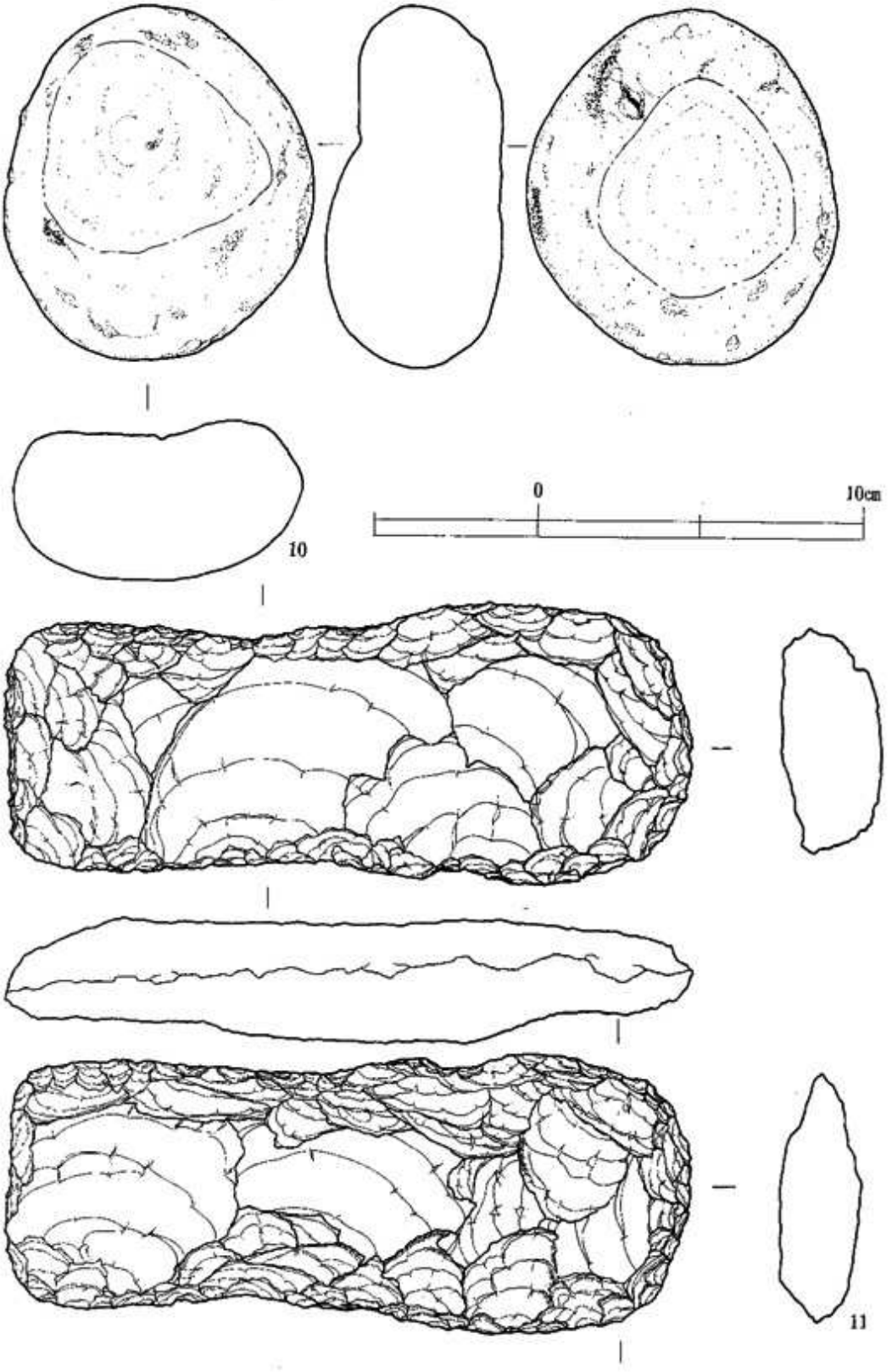
第28図　12号住居址出土遺物　(1／4)



第29図　1号掘立柱建物址出土遺物　(1／4)

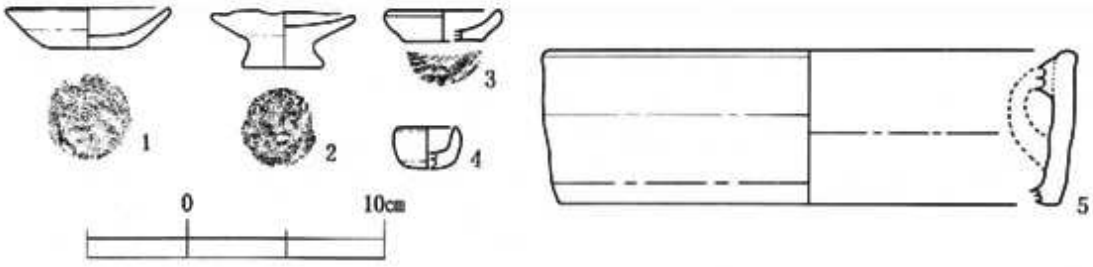


第30図　1号溝出土遺物　(1／4)

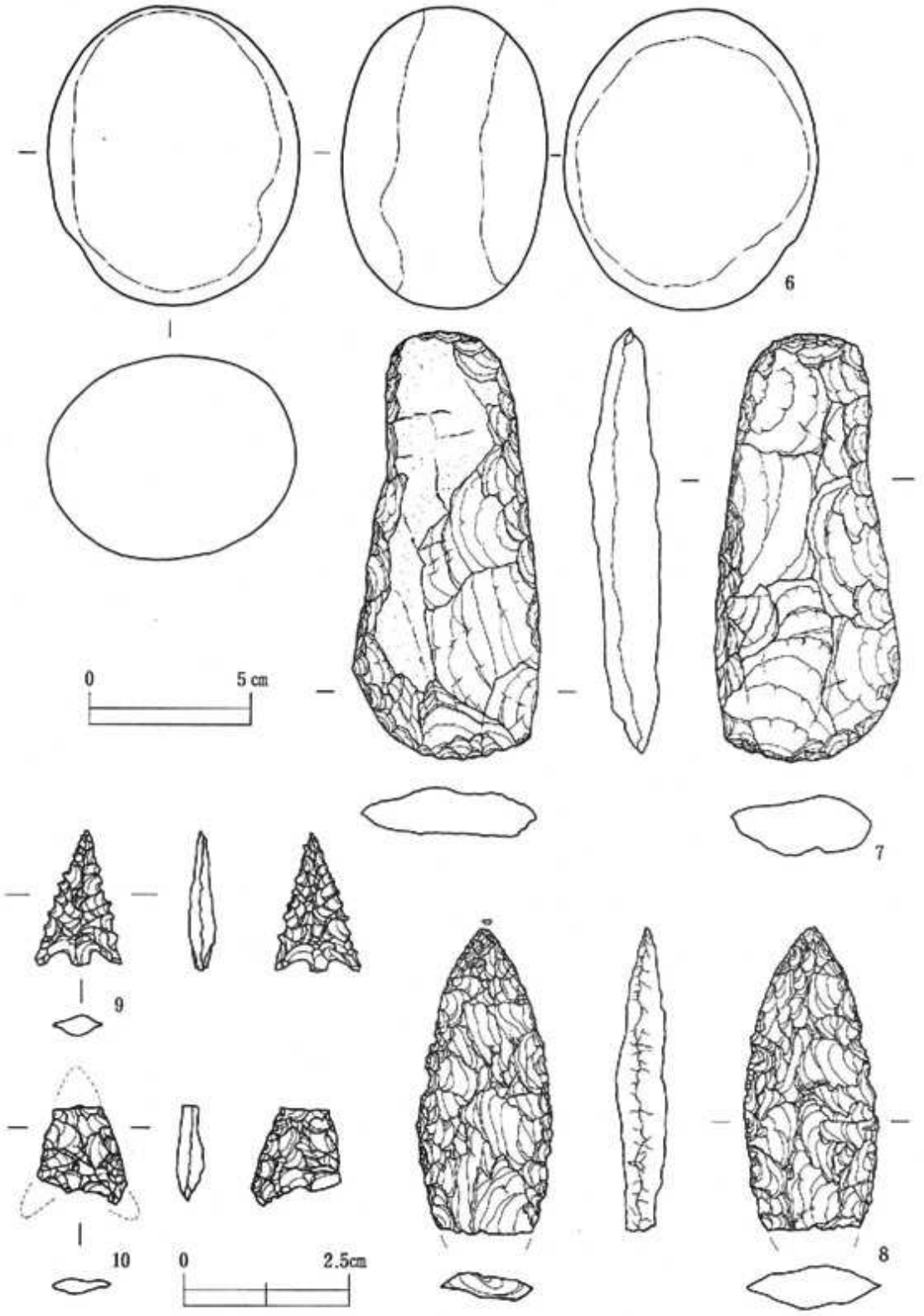


第31図　1号溝出土遺物　(1／2)

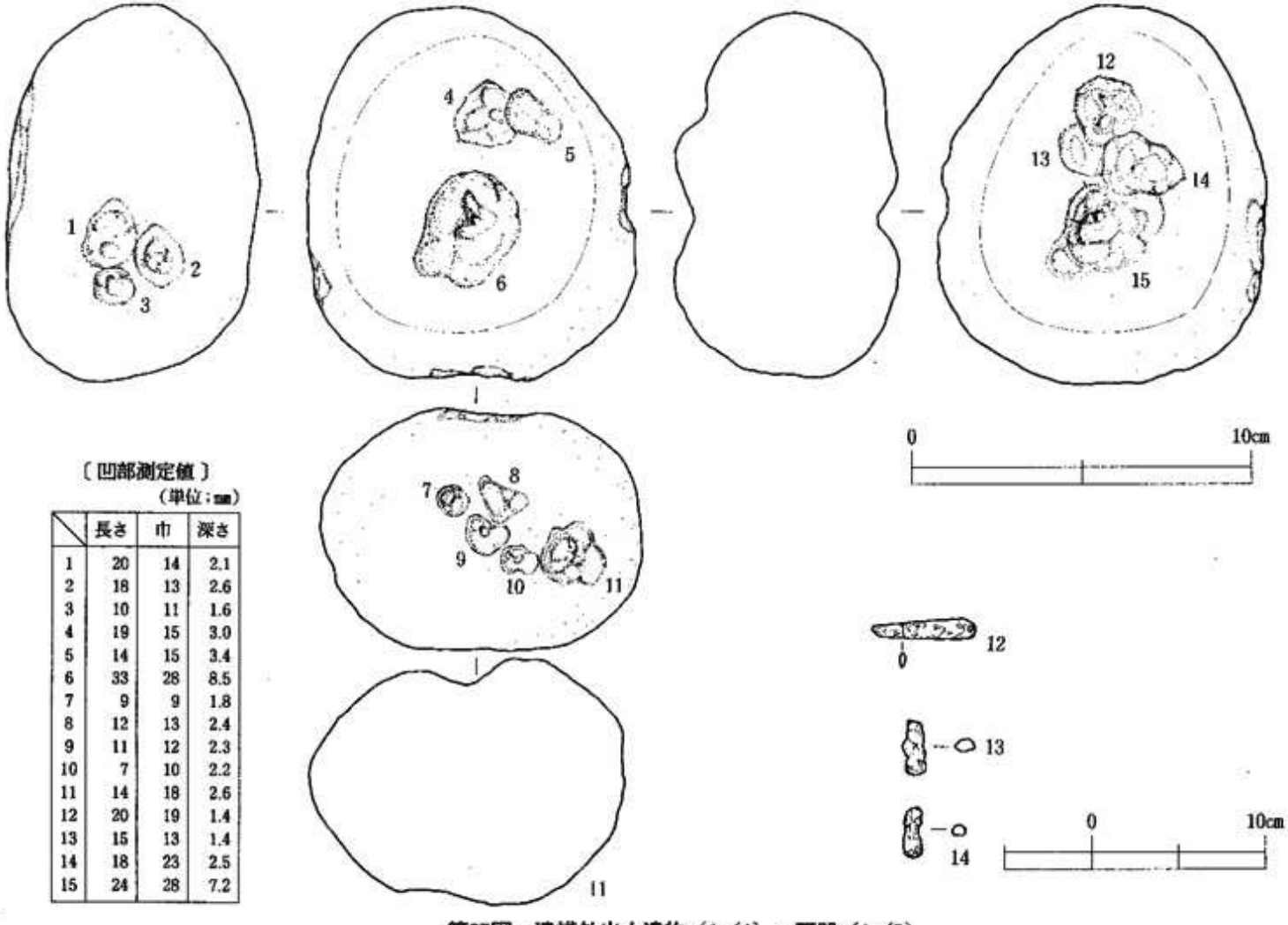
第32図　1号溝状凹地出土遺物（1／4）・石器（1／2）



第33図　遺構外出土遺物　（1／4）



第34図　遺構外出土遺物　(1／2) (1／1)



〔凹部測定値〕

（単位：mm）

	長さ	巾	深さ
1	20	14	2.1
2	18	13	2.6
3	10	11	1.6
4	19	15	3.0
5	14	15	3.4
6	33	28	8.5
7	9	9	1.8
8	12	13	2.4
9	11	12	2.3
10	7	10	2.2
11	14	18	2.6
12	20	19	1.4
13	15	13	1.4
14	18	23	2.5
15	24	28	7.2

第35図　遺構外出土遺物（1／4）・石器（1／2）

Ⅵ　宮ノ前第５遺跡出土の漆紙

１　出土地点

１号住居址から土師器の「盤状の坏」に付着した漆紙が出土した。坏は住居址東側に構築されるカマドの埋没土中から出土した。細かく言うと、カマドに落ち込んでいた大きな石の東側から遺構確認作業にともない発見されている。

２　資料観察（第36図）

坏の口径は推定で13.3cm、器高3.3cm、底径は約7.5cm。底部は静止糸切り後外周をヘラ削りするもので、ヘラ削りは器体部下半から底部に及ぶ。内面に暗文は見られない。みこみ部から３分の１上に段がある（稜・凹みがめぐる）。「盤状の坏」は甲斐型坏出現の前段階のものであり、本坏は８世紀前半頃の時期に比定できる。

坏の内面には漆液とみられる薄い膜が残存し、漆紙はこの上に重なり坏の内面に約７cm×４cmの大きさ（図の斜線部分）で付着している。漆紙以外の漆が明瞭に確認される箇所（ドット部分）の漆面は黒い光沢があり、細かいクラック（断文）が入っている。この部分では黒漆とも思えるが、坏内側の器面が黒変しており、漆紙の端（坏の割れている部分とは反対側になる方）が微細な発泡を呈していることから、火熱を受けていることが推定でき、実際には火熱を受けて漆が黒変してしまっていることが理解できる。また、漆紙は通常柿渋色乃至茶色系統の色調を呈するものであり、本資料は黒色をしているが、それは火熱を受けて漆が黒変した結果であり、坏の割れた部分にかかる端部に僅かではあるが本来の色である茶系色が確認される。外面底部と体部には漆汚れがある。なお割れた断面に漆がかかっており、まだ漆が生っぽい状態の時に坏が廃棄され割れて断面に付着したものと思われる。以上のことから本資料は廃棄された後の段階で何らかの火熱を受けて、器面や漆・漆紙が変化したものと考えられる。

赤外線テレビカメラでの観察では本漆紙に文書や墨痕は確認されず、「漆紙文書」としては認定されなかった。

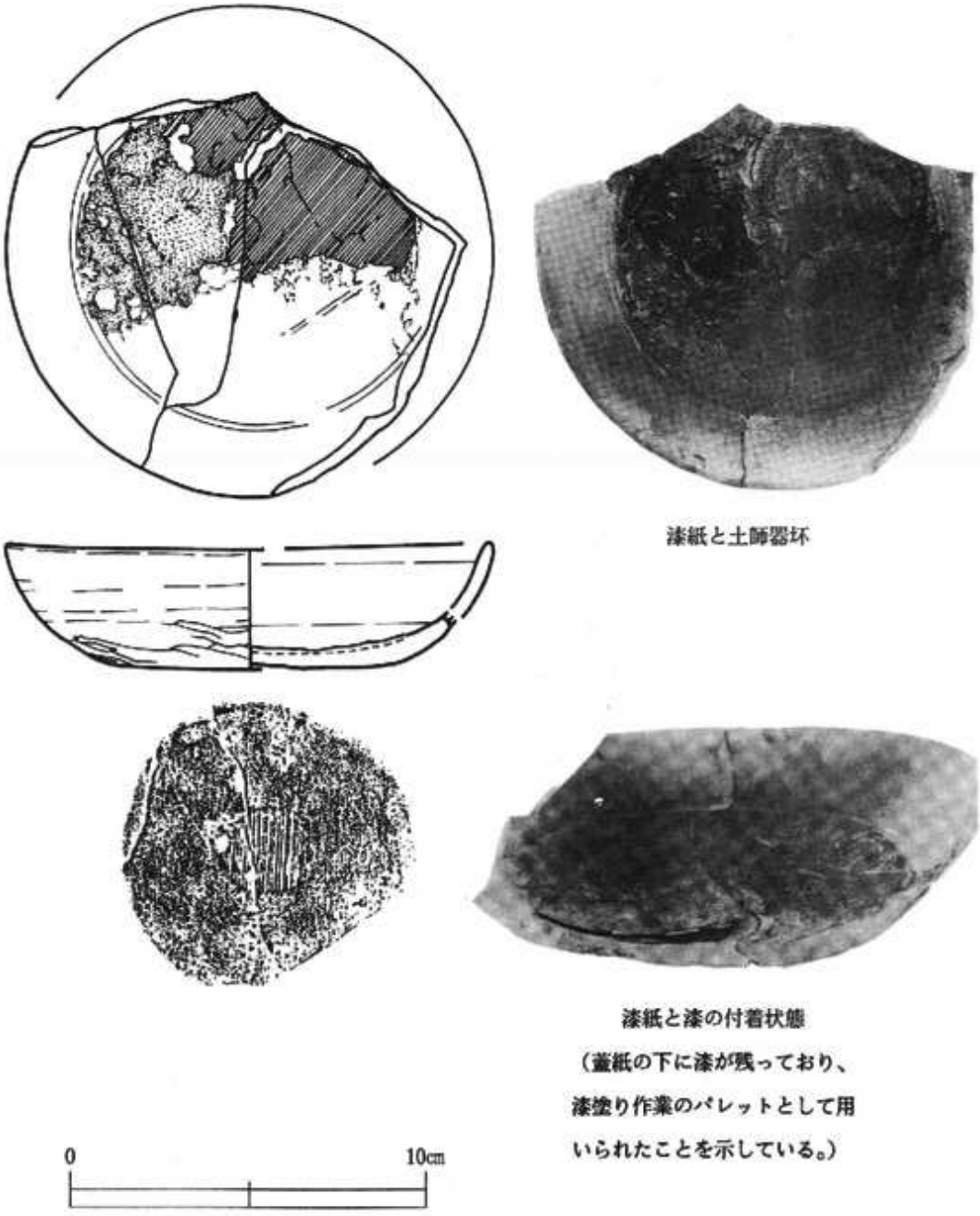
３　漆紙とは

漆紙は、漆塗りの際使う漆を入れた容器に漆の乾燥を防ぐ為に用いられた蓋紙が、紙に漆がしみこんで漆膜の保護作用により残ったものである。もともと紙は四角いが蓋をする対象物が円いために、漆が円形に付着し漆の部分は遺存するがそれ以外は残らず、漆紙は円形を呈することになる。

漆塗りではいくつかの作業工程があるが、土師器坏は貯蔵された漆を作業する分だけ取り出して使用するために用いるパレットに転用される例が多く、本資料は坏全面に漆紙が残ってはいないものの（残るとすればやはり円形となっていたであろう）、漆膜と紙の密着状況はパレットと蓋紙のあり方をよく示しているものといえる。

パレットに転用された坏の出土は、付近に何らかの漆製品をつくっていた工房があることを

想像させるが、作業などにかかわる道具等の遺物の出土がないために詳細はわからない。ただし、本遺跡出土の須恵器甕に内外面に漆を粗く（ハケの痕跡がわかり、むらがあり均一に塗っていない）塗ったものがあるので（第39図４）、あるいはこれが漆塗り作業にかかわりのある遺物となるかもしれない。



第36図　１号住居址出土漆紙と土師器坏

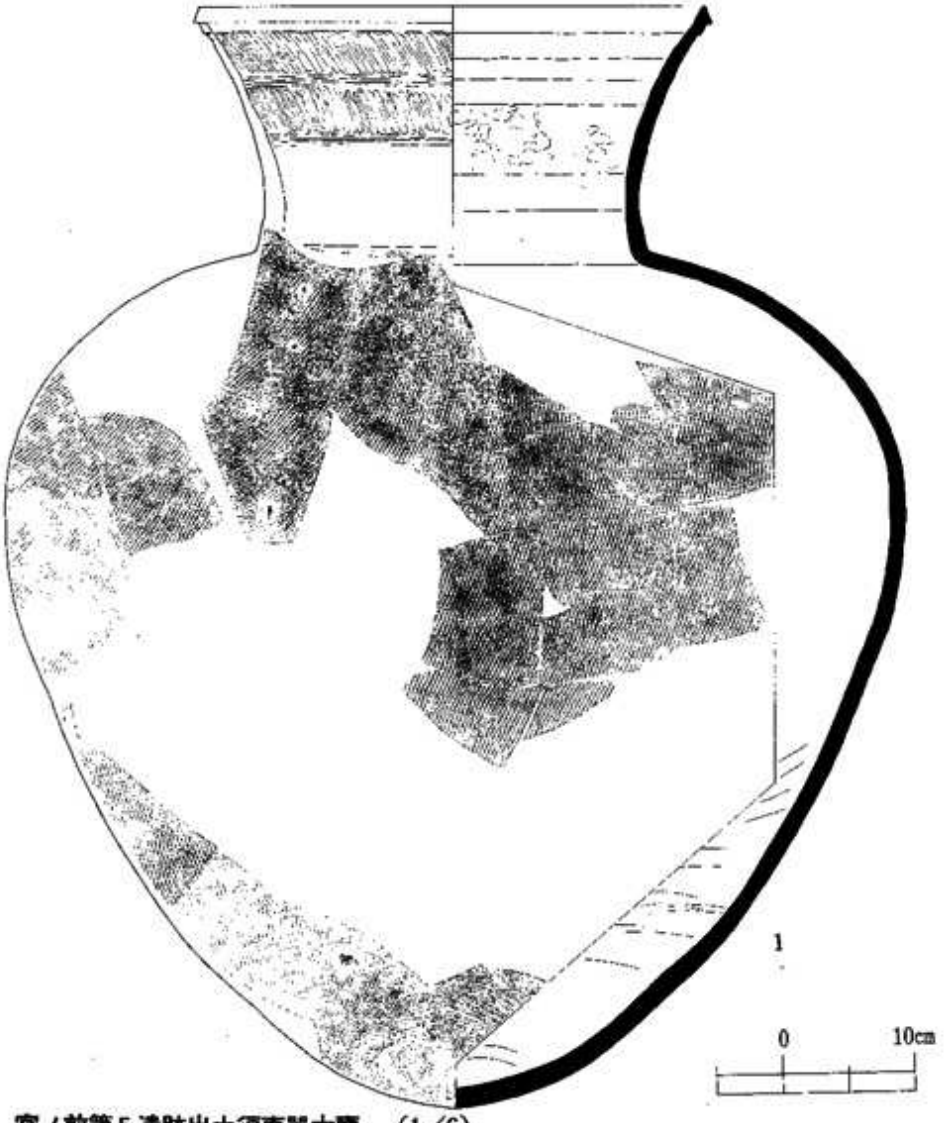
Ⅶ　宮ノ前第５遺跡の須恵器大甕

１　出土状況

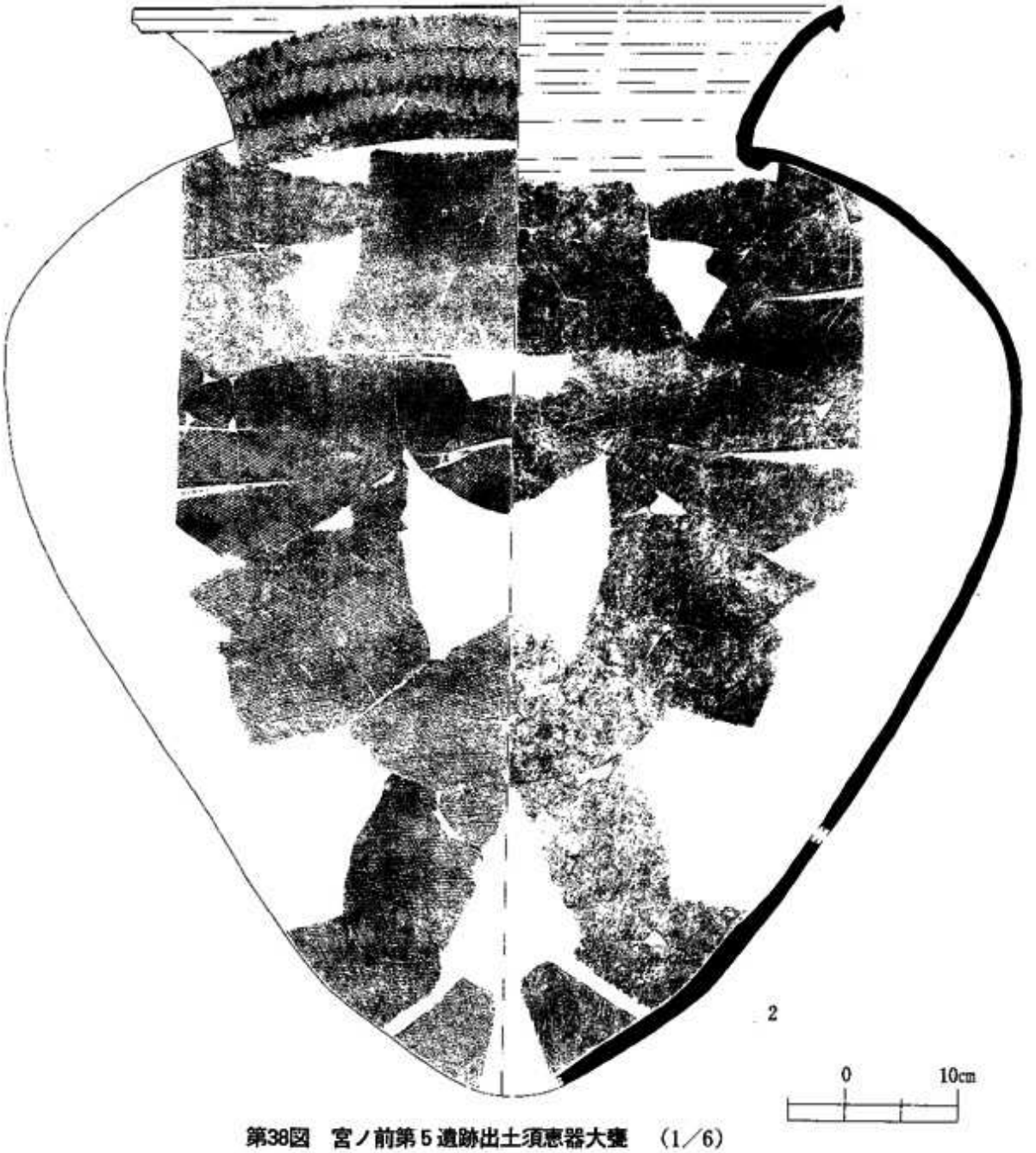
本遺跡６号住居址と１号掘立柱建物址からは須恵器甕の破片が大量に出土し、復元作業の結果大型の須恵器甕４個体となった。６号住居址では住居東半分からカマド西北側にまとまりをもって、拳大～人頭大の石とともに床面より若干浮いて出土している。１号掘立柱建物址からは掘立柱の範囲内から北側にかけてと、北辺中央西側柱穴内にまとまって出土している。甕破片は両遺構のものが接合できたが、１号掘立柱建物址柱穴出土の破片は第38図２が主体となっている。

２　資料（第37図～第39図）

１．口径は40.4cm、器高85cm、底部は丸底で、胴部最大径（70cm）が上半にあるやや肩のはっ



第37図　宮ノ前第５遺跡出土須恵器大甕　（1／6）



第38図　宮ノ前第５遺跡出土須恵器大甕　（1／6）

た形態を呈し、口縁部は頸部から垂直気味に立ち上がり緩やかに外反する。頸部外面には上下二段に二本の沈線がめぐりヘラによって間隔の詰まったジグザグ模様が施される。胴部外面は叩き目、内面は丁寧なナデとなっている。色調は黄灰色で、胎土は白色・黒色粒子を含みやや密。外面胴部上半に自然釉がかかる。残存率は30%。

2．口径は64cm、器高は推定97.5cm、胴部最大径は91.5cmで肩のはった形態を呈し、頸部から口縁部は外反する。底部は丸底を呈すると思われる。頸部外面には櫛描波状文が三段施され

第39図　宮ノ前第5遺跡出土須恵器大甕　(1/6)

る。胴部外面は格子叩き目、内面はナデで下半には刷毛目痕がみられる。色調は灰～暗灰色で、胎土は白色粒子を含む。肩部に自然釉がかかる。残存率60%。

3．口径は39cm、胴部最大径は50.3cmでやや肩のはった球胴形を呈すると思われる。頸部から口縁部は外反する。口縁部～頸部はナデ、胴部外面は叩き目の後ナデにより雑なスリケシ調整が施され、内面は丁寧にナデられるが上半に当て具の痕跡と思われる凹みがみられる。色調は灰色で、破片断面は暗赤褐色を呈し、胎土は白色粒子を含む。口縁部～胴部の破片。

4．口径は48cm、底部は丸底を呈すると思われ器高は推定72cm、胴部最大径は70cmで上半にありやや肩のはった形態を呈し、口縁部は頸部から外反する。口縁部～頸部はナデ、胴部外面は叩き目、内面はナデとなっている。色調は灰色で、胎土は密。肩部に降灰による自然釉がかかる。残存率は20%。本甕は胴部内外面に漆（黒色を呈しているが、化学的に分析した訳ではなく独断である。）が塗られており、胴部内面は肩部内側以下に刷毛目痕がのこるやや雑な感じで、頸部～口縁部内面は磨滅により不鮮明、胴部外面は頸部のくびれから肩部にかけては磨滅により薄く不鮮明、肩部以下は濃い、頸部～口縁部外面ののこりはよい。

これら須恵器大甕の時期決定は難しいが、感覚的にはおよそ８世紀～９世紀代と思われる。

3　用途など

関根真隆『奈良朝食生活の研究』（吉川弘文館　1969年）によれば、奈良時代の厨房用具の貯蔵用具として須恵器大甕を想定している。甕はモタヒとよみ、小さいものは二石七斗、大きなものでは七石五斗の容量がある。酒・醤（ヒシホ）・酢などが入れられる。由加（ユカ）は別にオオミカとも呼び、五石入りの池由加、一石入りの由加などがある。水汲み・貯水用の器とされる。瓾はミカとよみ、約一石～五石の容量がある。酒・醤・末醤（ミソ）・酢・水などが入れられる。瓾はサラケとよみ、ミカよりも一回り小さく浅甕と称される。容量は一石前後であろうか。酒・醤・酢などのほか漬物が入れられる。瓾はヒラカとよみ、三斗～五斗の用例が多くサラケよりもさらに小さい器である。酒・醤・末醤・酢・漬物・鮨・油などが入れられる。なお、これらは単なる容器としてだけではなく、各種醸造用に使われたものとしている。

宮ノ前第５遺跡出土甕の内容量を頸部のくびれた部分以下の胴部において図面上から計算すると、およそ１は147ℓ、２は313ℓ、４は156ℓとなる。大宝令雑令には「量は十合を升となし、三升を大一升とし、十升を斗、十斗を斛とする」とあり（斛はコクとよみ本稿では石と表記）、古代の大一升は今の約四合＝0.72ℓにあたる（井上光貞ほか校注『日本思想大系３　律令』岩波書店　1976年）から、１は二石、２は四石強、４は二石強となり、本遺跡の甕は甕（モタヒ）ないし瓾（ミカ）の範疇に入るものと思われる。底部の不安定さからいうとある程度土中に埋設してあったと想像される。

新潟県新潟市的場遺跡・同黒埼町緒立遺跡は、蒲原平野の信濃川が日本海にそそぐ河口近くにあり、信濃川左岸から1.5km西の海岸線から４km内陸部に位置している。遺跡は河川の蛇行によって形成された自然堤防上に立地し周辺には潟湖が点在する低湿地となっており、東と西

に800m離れた両遺跡以外に奈良・平安時代の遺跡は周辺には存在しない。的場遺跡は8世紀前半〜10世紀代、緒立遺跡は8世紀半ば〜9世紀第3四半期に営まれたとされ、大型の掘立柱建物の存在、多量の漁労具・鮭などの魚にかかわる木簡・銙帯金具・祭祀遺物の出土、農耕具の皆無などから水産物の公的な管理施設であったと推定されている（「的場遺跡」『新潟市史資料編1』1994年・小池邦明「新潟平野の低湿地遺跡 −新潟市的場遺跡の調査−」『日本歴史』552号・藤塚明「的場遺跡の概要と予測 −低湿地遺跡の一例として−」『市史にいがた』12号）。両遺跡からは須恵器大甕が出土しているが、特に緒立遺跡からは、「□一□六水戸四□二 □□□ □ 酒杯九十」と記された木簡が出土しており、大勢の人間に酒食を供給する施設との関連が指摘されている（黒埼町教育委員会『緒立C遺跡発掘調査報告書』1994年）。

市内では400軒以上の竪穴住居と50棟あまりの掘立柱建物が発掘された宮ノ前遺跡でさえ大型の須恵器甕はほとんどなく、県内の奈良・平安時代において本遺跡須恵器大甕に匹敵するような大きさの復元された甕は山梨市日下部遺跡に類例が1点あるのみである。須恵器大甕による酒・醤・末醤（ミソ）・酢・水などの大量貯蔵は、前述の新潟県的場遺跡や緒立遺跡の例のように一般住居での使用は考えにくく（なお、詳細は不明であるが、岩手県北上市相去町大谷遺跡の平安時代竪穴住居跡では住居内に埋設して須恵器大甕が出土しているらしく、一般住居の使用例ということになろうか。）、大勢の人間に酒食を供給する点から本遺跡の性格を考えると、わずか150mしか離れていない宮ノ前遺跡とのかかわりが注目される。宮ノ前遺跡は一部館的な様相をもった遺跡と推定されており、館は「国内を巡行する国司や伝馬を利用して郡内を往来する公的な使者・旅行者が宿泊する施設、あるいは郡司の宿所」（山中敏史『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房 1994年）とされ、賄いのための厨房施設が当然設置されていることになる。となれば、先に宮ノ前遺跡には須恵器大甕がないことを記したが、本遺跡は須恵器大甕を使用し管理する場所、言い換えれば宮ノ前遺跡への酒食供給の厨房施設としての性格が考えられることになる。

ところで、4は内外面に漆が塗られていることを観察したが、漆塗りの作業現場においては漆容器は一般的に曲物を用い、甕などの土器は生産地からの運搬に使用した場合が考えられている（平川南『漆紙文書の研究』吉川弘文館 1989年）。Ⅵ章でみたように漆塗りのパレットとして用いられた坏の出土は、何らかの漆塗り工房の存在を示しており、4の須恵器大甕とのかかわり ―生産地からの漆の運搬・遺跡内での使用・甕の器面に対する漆の塗布などが問題となってくる。厨房施設・漆塗り工房といった本遺跡の性格を決定するにはなお一層の検討が必要であろう。

なお、近年土器などの透水性を防ぐために漆を塗る例が注目されている（永嶋正春「鹿沼市稲荷塚遺跡出土の材質と技法 −古墳時代後期の，漆による表面仕上げを施した土師器を中心に−」栃木県教育委員会『稲荷塚・大野原』 1987年など）。須恵器甕は基本的に土師器よりも透水性がひくく液体の貯蔵には適しており、さらに漆により透水性を防ぐ必要があったのだろうか。

Ⅷ まとめ

今回の調査で発見された遺構は、竪穴住居址12軒、掘立柱建物址１棟、溝１条、溝状凹地１基、凹地１基で、出土遺物は土師器・須恵器が中心で奈良・平安時代主体の遺跡となっている。

本遺跡のある藤井平は古代の遺跡が数多くあり、特に宮ノ前遺跡を中心に遺跡が集中しており、宮ノ前を冠した遺跡だけでも五つ目にあたる。これら遺跡の発掘調査により、古代における当該地域の埋もれた歴史が明らかになりつつあるが、今回の調査ではとくに、須恵器大甕の出土と漆紙の発見が大きな意味をもった。県内でも類例のない須恵器大甕は、宮ノ前遺跡とのかかわりのなかでとらえられ、館に属する厨房施設を想定させ、漆紙は漆塗りパレットに使用された坏に付着した状態で発見され、漆塗り工房の存在を推定させることになった。同じ遺跡で２つの異なったイメージが形成されるのであるが、これは宮ノ前遺跡周辺に展開する遺跡の多様な側面を反映しているのであり、本地域に展開した豊かな古代史像を物語っていよう。

須恵器大甕を製品としてみると、これまでに奈良・平安時代の須恵器窯は本遺跡周辺では発見されておらず、須恵器大甕は他所から運ばれて来たものと考えられるが、一定量の重さがあり、壊れる心配があり、その運搬には慎重に対処したであろうことが想像でき、それは陸上輸送よりも河川を利用した水運によってもたらされたと推測される。本遺跡の東500ｍには塩川が流れており水上交通が想定できるが、これら大甕は須恵器の生産・流通・消費を考究するうえで貴重な資料となろう。また、漆あるいは酒・醤・末醤（ミソ）・酢といった商品（あるいはこれらの原材料）の流通も考えなければならず、立地や周辺環境を含め、本遺跡がもたらす成果や提起する問題は多大なものがあるといえる。

漆紙からは残念ながら文字が検出されなかったが、Ⅶ章でみた新潟県的場遺跡では墨書土器・木簡などの出土文字資料から遺跡に関する有効な情報が得られている。今後本遺跡周辺からの出土文字資料の増加を期待したい。

なお、古代以外では、遺構外ではあるが、縄文時代草創期に属する小型の木葉形尖頭器が出土している。先端と基部が折損しているが、当該時期の遺跡は本地域には無く特筆すべきものであろう。

おわりに

本報告は限られた時間のなかでの作業によりまとめられたものであり、遺構と各遺跡から出土した遺物を中心に資料化を試み、それらを掲載・提示したに過ぎない。調査の成果と資料の詳細な検討・考察が行われず、不十分なことは否めないが、今後の調査研究に資すれば幸いである。

写　真　図　版

チョウゲンボウ（長元坊・ハヤブサ科）

この鳥は漂鳥として山地で繁殖し、秋から冬にかけて平地や農耕地などでも生活する。巣は岩壁のくぼみなどを利用し自分ではつくらない。四、五月ごろ数個の卵を産み、集団として五巣から十巣をつくる。餌としてはハタネズミ・ヒメネズミ・モグラ・ホオジロ・ツグミ・ムクドリなどを食し、さらにトカゲ・イナゴ・バッタ・コガネムシなど広い範囲の動物を捕食する。（『韮崎市誌』上巻　1978年より）

韮崎市穂坂町日之城地内鷹の巣岩一帯はチョウゲンボウの生息地として知られ、1972年に山梨県の自然記念物に指定された。鷹の巣岩は宮ノ前第５遺跡から東に800ｍ程離れており、写真のチョウゲンボウは、遺跡周辺でカラスにいじめられていたものを守屋正久氏が保護（1996年５月27日）したときに撮影した写真である。まだ幼鳥であるらしい。

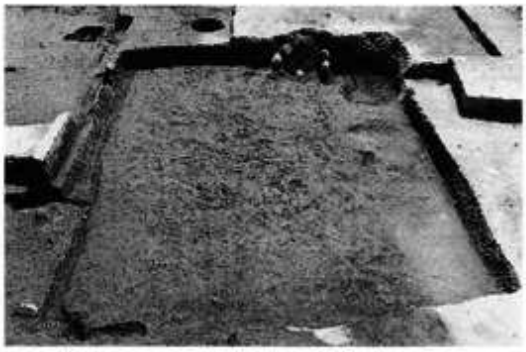
1号住居址

5号住居址

2号住居址

6号住居址遺物出土状態

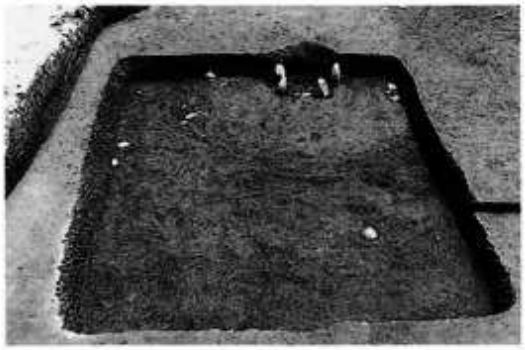
3号住居址



6号住居址

4号住居址

7号住居址・8号住居址



9 号住居址

1 号掘立柱建物址

10号住居址

1号溝状凹地

1号溝

11号住居址

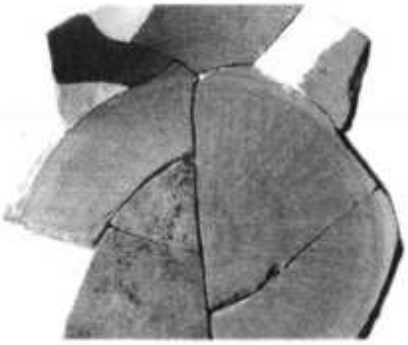
1 号凹地

12号住居址

発掘風景

2

5


4（内面暗文）

1号住居址出土遺物

2

8

9

10

3号住居址出土遺物

2

3

6

7

4号住居址出土遺物

1

3

5号住居址出土遺物

10

11

12

13

15

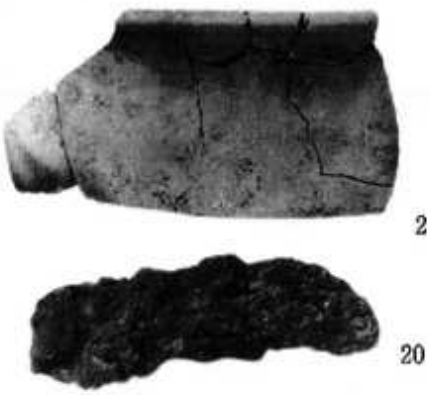
20

6号住居址出土遺物

7号住居址出土遺物

9号住居址出土遺物

11号住居址出土遺物

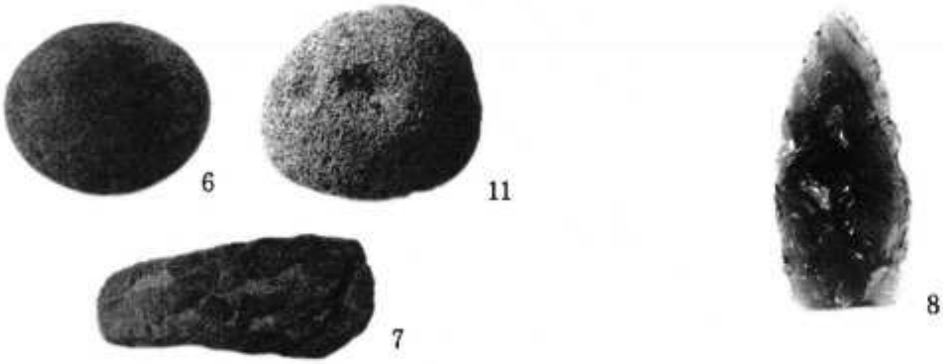


12号住居址出土遺物

1号溝出土遺物

1号溝状凹地出土遺物

遺構外出土遺物



遺構外出土遺物

須 恵 器 大 甕

2

4

4 胴部内面漆塗りの痕跡

4 肩部内面漆塗りの痕跡

須 恵 器 大 甕

宮ノ前第5遺跡

発行日　平成9年3月31日

発　行　韮崎市教育委員会
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目3－1
TEL 0551－22－1111㈹

印　刷　アートプリント社